

### 事項一 「ブラジル」移民関係雑纂

三一九 一月五日 在サンパウロ松村総領事ヨリ  
石井外務大臣宛

氏名詐称渡伯ノ移民福島県人佐々木等二関スル件

公第四号 (四月四日接受)

大正五年一月五日

在サンパウロ

総領事 松村 貞雄

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

従来我伯国移民中渡航ノ目的ヲ達センガ為メ表面一時的家族ヲ構成シテ渡来シタルモノ甚タ不尠此ガ当然ノ結果トシテ着伯後一年ナラサルニ東西ニ離散シ為メニ我移民全般ノ声価ニ悪影響ヲ及ホセルコトハ数次申進候次第ニ有之候処元來複雑ナル戸籍上ノ手續ヲ纏メ一家ヲ構成スルガ如キハ僻邑ノ農民ガ敢テ為シ得ル所ニアラズ之レ全ク移民募集人、下級戸籍吏等ノ使喚入智恵ニ出ツルモノナルコトハ推断ニ難カラザル義ニ有之候偶今回曝露セル本件ノ如キハ明

洋移民会社取扱第三回移民ニ応募センガ為メ同町戸籍吏及関係者等ト謀リ戸籍謄本ヲ偽造シテ同県同郡同町大字牛渡五十四番鈴木豊次郎(明治十八年七月十二日生)養子ト偽リ且ツ其生年月日ヲ変シ、忠ハ同手段ヲ以テ同町同字七十八番地末永真記(明治十一年二月十三日生)ノ養子ト偽リ同シク年令ヲ変シ家族トシテ渡来シタルコト今回徴兵猶予出願上自白ノ已ムナキニ至リタルモノ也

在 留 届

原籍 福島県双葉郡浪江町大字権現堂字新町七拾九番地  
農平民寅之助 長男

佐々木 清治

一、渡航ノ時 大正貳年拾壹月(東洋移民会社取扱第參回移民)  
明治貳拾七年七月五日生

一、現在留地 Fazenda, Santa Eudoxia, Estacuso  
Alpedo Ellis, Linha Paulista Estado  
de Sao Paulo.

右私儀前記東洋移民会社取扱第參回移民として同船渡伯したる同県同郡同町大字牛渡鈴木愛治郎(家長)と家族を構成

一 「ブラジル」移民関係雑纂 三一九

カニ這般ノ事実ヲ証明スルモノニ有之尚ホ此他ニモ同様ノ事件ニシテ露頭セサルモノ不尠ト被存候就テハ将来ニ対スル見セシメトモ可相成義ニ付本件篤ト御詮議ノ上嚴重ナル御処分相成候様致度尚ホ今後移民募集ニ当テハ其家族ヲ構成スル妻又ハ養子タル者ニ対シ入籍後一ケ年或ハ一ケ年半ノ期間ヲ付スル等相当ノ条件ヲ設クルト共ニ募集人戸籍吏等ニ対シテモ相当取締ノ方法ヲ講セラレ度別紙一件書類相添此段申進候 敬具

(別紙)

佐々木清治及忠ニ関スル件

福島県双葉郡浪江町大字権現台字新町七十九番地寅之助 長男

佐々木 清治

明治二十七年 七月 五日生

同 忠

明治二十九年二月二十八日生

右清治ハ別紙本人在留届書中ニ記載ノ如ク大正二年九月東

し旅券下附出願に要する戸籍謄本面のみの養子となり鈴木姓を冒し又生年月日の如きも明治參拾壹年七月五日となし鈴木清治として渡伯(実戸籍面には何等の変化なく只戸籍係の手に依つて都合好く作成したる迄に候)し家長の就耕したるFazenda, Morungaba, Estacño, Campos Salles, Linha Paulista に入耕し昨年始め Fazenda Sauta Antonia Estacño, Carlos Magalães, Linha Anaguaros に転し本年七月以来前記現在留地に在耕致居候に付此段及御届候也

大正四年拾貳月五日

右 佐々木 清治(印)

在伯国

帝国総領事 松村貞雄殿

在 留 届

原籍 福島県双葉郡浪江町大字権現堂字新町七拾九番地  
農平民寅之助 二男

佐々木 忠

一、渡航の時 大正貳年拾壹月(東洋移民会社取扱第參回移民)

三三九

(民)

一 現在留地 Fazenda Santa Endoxir, Etacão, Alpedo Elis, Linha Paulista, Estado de Sao Paulo

右私儀前記東洋移民会社抜第参回移民として同船渡伯したる同県同郡同町大字同字同七拾八番地末永真記(家長)と家族構成をなし旅券下附出願に要する戸籍謄本のみ養子となり末永姓を冒し又生年月日の如きも明治参拾叁年貳月式拾八日となし末永忠として渡伯(実戸籍面には何等の変化なく只戸籍係の手に依りて都合好く作成されたるもの候)し家長の就耕したる Fazenda Mrungaba Estacão Camps Salles, Linha Paulista に入耕し昨年始め Fazenda Santo Antonio, Estacão Carlos Magalães, Linha Araguara に転じ本年七月以来前記現在留地に在耕致居候に付此段及御届候也

大正四年拾貳月五日

右

佐々木 忠(印)

在伯国

三二〇 一月二十五日 在サンパウロ松村総領事ヨリ 石井外務大臣宛

氏名詐称渡伯ノ移民福島県人石川等ニ関シ報

告ノ件

(四月五日接受)

公第一一〇号

大正五年一月二十五日 在サンパウロ

総領事 松村 貞雄

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

本月五日附公第四号ヲ以テ氏名詐称渡伯移民ニ関シ及具申置候処其後更ニ別紙ノ通り新事実曝露致候ニ付御取調ノ上相当ノ御所置相成度尚ホ本人書中ニモ記載致居候通り福島県下ハ殆ソト一般トモ可認有様ニ有之畢竟移民募集人及村吏等ノ私慾情実ニ因ルモノト被察候ニ付県当局並ニ会社ニ対シテモ屹度警告ヲ与ヘラレ候様致度一件書類相添此段申進候 敬具

(別紙)

取調書

福島県双葉郡刈野村大字室原十五番地戸主寅吉 甥

一 「ブラジル」移民関係雑纂 三二〇

帝国総領事 松村貞雄殿

(一)

岸波常三郎ニ関スル件

福島県伊達郡湯野村字湯野上三十九番地伴次 長男

岸波 伴吉

明治二十三年四月二十一日生

右者明治四十五年四月竹村商會第三回移民トシテ来伯シタルモノナルガ当初一家構成上弟常三郎(伴次三男明治二十八年十二月十七日生)ヲ養子トシテ渡来セントシタルモ年令關係上許可ヲ得ル能ハザリシガ為メ常三郎ノ次弟即伴次四男徳七(三十一年一月六日生)ヲ養子トナシ渡航ノ許可ヲ得タル後常三郎ヲ徳七ト偽リテ来伯シタリ、然ルニ本年度ハ常三郎ノ徴兵適齡ニ相当シ前頭ノ事実露頭セントスルガ故ニ更ニ当館ヲ欺キテ客年九月中常三郎ノ呼寄ヲ出願セシメテ常三郎ト偽テ徳七ヲ呼寄セ以テ事実ヲ糊塗セントシタルコト今回偶然曝露スルニ至リタルモノ

~~~~~

石川 茂雄

明治二十六年六月二十一日生

同 義雄

明治三十二年 七月 十日生

同県同郡同村字同三番地戸主里右衛門 弟

山本 由衛

明治二十八年 四月三十日生

右三名ハ東洋移民会社第三回移民トシテ大正二年来伯シタルモノナルガ別紙茂雄自白書ノ如ク来伯ニ際シ茂雄ハ前頭山本里右衛門ノ弟由衛。義雄ハ里右エ門長男智。由衛ハ同村同字二十九番地宮口幸助長男兼次郎ト詐称シテ各其生年月日ヲモ偽リ来伯シタルモノニシテ真正ノ智並ニ兼次郎ハ目下郷里ニ住居シ居ルコト今回徴兵猶予出願ニ要スル在留証明出願ニ当リ発覚シタルモノ也

写(原文ノ儘)

石川 茂雄

帝国総領事

松村貞雄殿

御書面難有拝読仕候

以前在留証明願提出致シ候時ハ渡航許可証ト戸籍謄本ト提出スレバヨシト言フモノデスカラ、其ママ其意ニ從テ出願致シ候。今回ハ又色シナ条件ヲ書キ添エ尋問トハ中々以テ面倒ナル事ニ候小生ニ御尋問アレバカクシ申サズ心晴ナル返答申上クベク候、人目ヲカクレ歩ム者ニアラサレバ左ノ通り申述ヘク候

尋問第一条

前述ノ如ク小生ハ山本由衛トシテ身代リテ来伯致シ候

尋問第貳条

真正ノ山本由衛ハ伯国ニ現住シ居ルモ宮口兼次郎ト名乗リテ来伯シ候モ、真正ノ宮口兼次郎ハ日本国ノ生地ニ住居致シ居ル事ニ候。兼次郎事ハ疾ニ帰国致候様ニ村役場ニテ戸籍ノ方ハ作リアル事ニ候

尋問第三条

小生ト山本家トハ何ノ關係モナク唯タ隣家ニ候 隣家ニテ同志ノ事ナレバ小生兄弟計リテ来ラレズ、山本夫婦計リテモ行カレズ、小生ノ舎弟(義雄)ヲ山本ノ長男トナシ小生ハ由衛ト偽リテ相談シ真正ノ由衛ハ宮口トハ親戚中ナレド斯カル家族構成ヲナシタルモノニ候

家長

一、身長五尺二寸二分、顔細、山本里右エ門

一、小麦色、眼小、眉濃、明治十年九月十二日生

一、鼻梁左方ニ小母斑一個、妻カッ

一、身長四尺八寸二分、顔長色黒、明治九年九月十五日生

一、眼小、右白歯一本欠損、顯、長男、智

一、左方ニ小豆大ノ痣アリ、明治三十一年三月二十六日生

身長四尺七寸一分、顔長色黒、不、智

右伯刺西爾國へ渡航ヲ許可ス

大正二年八月十四日

福島県知事 太田政弘

渡航許可証

福島県双葉郡刈野村大字室原字法光内三番地平民戸主里

右エ門弟 家長里右エ門弟

一、身長五尺一寸丸顔色白、山本由衛

一、齒揃眉濃、明治二十八年四月三十日生

右伯刺西爾國へ渡航ヲ許可ス

大正二年八月十四日

一 「ブラジル」移民関係雑纂 三二一

尋問第四条

小生ノ舎弟ハ山本里右エ門ノ長男智トシテ来伯致シ真正ノ山本智ハ母国ニ住居スルノデス、之レモ既ニ戸籍ヲ直シマシタ

尋問第五条

小生ハ家長ニアラザレバ世話人(註曰、移民渡航ノ世話ヲ尽力シタル人ヲ指ス)ノ名ヲ知り申サズ況シテヤ郡違ヒノ相馬ト双葉ナレバ世話人ノ名ハ忘レ申シ候構成ハ此ノ人ノ指図ニ候

尋問第六条

福島県ノ海岸線ヨリ来伯シタモノハ大概斯様ナル次第ニ候世話人ハ同シデスモノ。知人等ハ全部散リ散リバラバラナレバ如何ノ空ニ離レシカ音信モ絶エタ。血氣盛リノ男子計リナレバ、耕地ナドニハ居ランノデス、先ハ用事迄此書着次第御許可相成度願申候早々

移民取扱人 東洋移民合資会社

渡航許可証

福島県双葉郡刈野村大字室原字法光内三番地平民戸主農

福島県知事 太田政弘

在サンパウロ松村総領事ヨリ

三二一 一月三十一日 石井外務大臣宛

大正四年在伯本邦移民概況報告ノ件

公第一二号 (四月五日接受)

大正五年一月三十一日

在サンパウロ

総領事 松村貞雄(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

大正四年ニ於ケル在伯本邦移民ノ概況別紙之通り報告候間

御覽相成度此段申進候 敬具

(別紙)

大正四年在伯本邦移民概況

大正四年ニ於ケル本邦移民ノ状況ハ概シテ良好ナル成績ヲ示シ從來ノ如ク苦情紛議等続出ラ見ズ唯兩三回ノ小事故アリタルノミ是レ畢竟一般ニ当国ノ事情ニ通シタルト、不良耕地ヲ避ケ優良ナル耕地ニ移リタルト、偽成家族解体シ大部分健全家族トナリタルト、事情ニ馴レザル新來移民ノ杜絶シタルトヲ其重ナル理由ナリト思考ス戦乱以來歐洲移民

ノ渡来激減シタル為メ内地一般ニ労働者ノ不足ヲ感ズルリ至レリ此時ニ際シ我邦人ノ労働ニ熟練シ一部ノ雇主ハ漸ク本邦人ノ氣風ト誠実ナル就働振トヲ了解シ歐洲移民ニ比シ頗ル優等ナルコトヲ認ムルニ至リ人種の増悪心ナキ向ハ頗ル之ヲ優遇シ之レガ為メ場所ニヨリテハ他国移民ノ嫉妬ヲ招ク虞アル有様トナレリ大正四年中ニ於ケル耕地労働者ハ不景氣ニ原因スル賃銀ノ下落ト農産物ノ騰貴ニヨリ間作ヲ勉メザリシモノ及間作ノ便宜ヲ有セザルモノハ頗ル困難ヲ感シタルモ間作ノ收穫多カリシ向ハ反テ平年以上ノ所得アリタル為メ全体ヨリ觀テ三人家族平均五六百「ミル」ノ純益ヲ占メタルモノノ如シ茲ニ特記スベキハ近來我移民間ニ独立自營ノ氣風漸次旺盛トナリ大正四年末迄ニ自營農業ヲ開始セルモノ「サンパウロ」州内ノミニテ約四百家族ノ多キニ上レリ右ノ内西北鉄道、ソロカバナ鉄道及アララクアラ鉄道沿線即チ將來当州珈琲園ノ中心点タルベシト称セララルル最肥沃ナル地方ニ於テ土地ヲ購入シテ珈琲園ノ創開ニ從事スルモノ既ニ二百四、五十家族アリ此等ハ一家族ニ三十町歩ヲ有シ処女林ヲ開墾シテ珈琲樹ヲ栽培スルヲ以テ主タル目的トスルモ珈琲樹ノ結実ハ四、五年ヲ要スルヲ以

テ傍ラ雜農ヲ營ミテ生計ノ資ヲ得ルノ仕組ニシテ尚ホ未ダ其成績ヲ知ルノ時機ニ達セザルモ非常ニ僻遠ノ地ニアラザル限り耕地就働ニ比シ劣ラザル實収ヲ得ルコト容易ナラント信ズ殊ニ耕地労働ノ如キ奴隸的境遇ヲ脱シ自己ノ所有地ニ於テ自由ニ農作ヲナスヲ以テ其精神上ノ快樂ト將來ノ希望トニ大差アルハ勿論延テ其業務ニ対スル精勵ノ度モ亦大ニ異ナルヲ感ズルトハ実行者ノ直話ナリ此種ノ農業ニシテ成績ノ良好ナルコト確實ナルニ至ラバ將來毎農年ノ終了ト共ニ此種ノ企業者統出スルニ至ルベク随テ新移民ノ需要ヲ増進スルニ至ルベシト信ゼラル尚前記三地方ノ外中央政府經營ノ「モンソン」殖民地ノ如キモ年末ノ調査ニヨレバ就地者總計四百八十四家族二千四百六十九人ノ内本邦人百八十一位ヲ占ム尚「サントス」「ジュキヤ」間鉄道沿線ニ二十五家族ノ本邦土着者アリテ尚続々増加シツツアリ此等ハ目下多ク借地契約ニヨリテ新地ヲ開墾シ雜農及米作ニ從事セルモノナルガ今日迄ノ処其成績頗ル良好ナリ特ニ土人トノ關係甚ダ親密ニシテ地方人ノ歡迎スル所トナレリ此外「サンパウロ」市ノ近郊ニ於テ借地シ又ハ土地ヲ購入シ野菜、

雜穀ノ耕作及米作ヲ營ムモノ約六十家族アリ此等ノモノノ中ニハ從來市中ニアリテ職工又ハ家庭奉公等ヲ營ミタルモノ等モアリ近年ノ不景氣ニテ市中生計ノ困難ナルト市中労働ノ到底堅実ナル方法ニアラザルヲ覺リタル結果ナルモ何レモ大正四年ノ創始ニ係リ果シテ永続シ得ルヤ否ヤヲ知ル能ハザルモ何レモ市中ニ比シ生活ノ容易ニシテ氣樂ナルヲ満足セルモノノ如シ此近郊農作ハ從來市中ニ放浪シテ當國人ノ為メニ指彈セラルル本邦下級者ノ為メ好個ノ指導法ナリト信シ勉メテ之ヲ奨励シ其成績ノ不良ニ終ラザラン事ヲ切望シ居レリ

大正四年ニ於ケル農業労働者ノ本邦送金ハ歐洲戦乱以來万国郵便為替ノ取扱ヲ中止セル為メ各自送金ヲナス便ナキト伯貨下落シ邦貨換算率ノ低下セル為メ一般ニ送金ヲ控ヘタル氣味アルモ東洋移民会社ニ依頼セルモノ六百十六口伯貨百九十五「コントス」百七十「ミル」当館ニ依頼シ來レルモノ五百七十八口伯貨貳百六十「コントス」合計千百九十四口伯貨四百五十五「コントス」百七十「ミル」アリ此他尚邦人自身外国銀行ノ手ヲ經テ直接送金セルモノ若干アルヲ以テ總計約四百七十「コントス」ニ達セルナラント思

考セラル在留者一万六千人ニシテ大正四年中ニ取扱ヒタル出生數ハ六百五十六件内男子三百五十七名、女子二百九十九名ニシテ前年ニ比シ百九名ヲ増加セリ死亡數ハ三百二十七件内男子百七十名女子百五十五名ニシテ前年ニ比シ二十九名ヲ増シ全体ニ於テ差引三百二十九名ヲ増加シタル勘定ナリ

三二二 三月二十日 在サンパウロ松村總領事ヨリ  
石井外務大臣宛

在伯移民取扱人ノ統一並在伯機關ノ改善方策

請ノ件

領第一六号 (五月十七日接受)

大正五年三月廿日

在サンパウロ

總領事 松村貞雄(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

就地移民ヲ指導啓発シテ適當ニ之ヲ發達セシメ、平素汎ク伯國ニ於ケル本邦移民ノ發展シ得ヘキ場所及方法等ヲ研究シ、其他我移民需用ノ途ヲ開拓スル目的ヲ以テ適當ノ措置ヲ講スルハ帝國領事ニ於テ常ニ之ニ留意スヘキハ勿論ノ儀

ニ有之候得共移民会社ニ於テモ完全ニ其義務ヲ尽シ併セテ其業務ヲ發達セシメント欲セバ同シク又此等諸点ニ留意シテ着々之ヲ実行スルノ必要有之候様被存候処從來我移民取扱人ハ単ニ当面ノ事務ヲ処理スルニ止メ移民ノ指導啓発等ハ寧ろ勉メテ之ヲ避ケタル傾アリタル為メ反テ其業務ヲ發達ヲ阻害シ發展シ得ヘキ運命ヲ有シタル我移民ヲシテ今日迄充分ニ其志ヲ得サラシメザルハ過去八年間ノ經驗ニ徴シテ明白ナル次第ニ有之候処今日ニ至ル迄右ノ如キ大体ノ注意スラ喚起スルコト能ハザリシハ從來当地ニ領事館ノ設ナカリシニ基因スル所少ナカラザルモ一方移民取扱人ガ当國ニ於ケル業務ニ重ヲ措カズ唯々本邦ニ於テ巧ミニ移民ノ頭數ヲ整ヘ可成ク經費ヲ少クシテ無事「サントス」港ニ送付スルヲ以テ移民業ノ能事了レリトナシタルニ職由セズンバアラズト相信候若シ移民取扱人ニシテ從來ノ方法ヲ改メズンバ仮令將來当州ニ於ケル氣運、我移民ノ誘入上好都合ノ時機ニ遭遇スルコトアリトスルモ結局過去ノ歴史ヲ繰返スニ過キスシテ当國ニ於ケル我民族ノ秩序アル發展ハ到底之ヲ期スルコト能ハザルベクト存セラレ候ニ付此際移民取扱人ヲシテ大ニ覺醒スル所アラシメ深クカヲ当地出張所ニ注

クコトトシ手腕品性共ニ優良ナル人土ヲ派シテ其主任トナサシメ大ニ業務ノ發展ヲ画策セシムルノ必要アリト相認メ候

次ニ当國內地ニハ医師ノ數乏シク療養ノ方法頗ル困難ナルハ勿論診察料非常ニ高価ニシテ移民ノ如キハ場所ニヨリテハ一回ノ診察ヲ受クル為メ一年ノ貯ヲ蕩尽セザルベカラザル有様ニテ幸ニ耕地ニヨリテハ農民ノ為メニ医師ヲ特約シ置ク処アルモ無知ニシテ且ツ當國ノ事情ニ通セザル農民ハ平素ノ衛生ハ勿論病時ノ心得等ヲ解スルモノ少ク随テ頗ル罹病シ易キ上ニ容易ニ全治シ得ベキ病人ニシテ死ニ至ルコト屢々有之現ニ過般某耕地ニ腸チブス熱流行セル際ノ如キ耕主ノ厚意ニヨリテ雇入レタル医師ガ食物ヲ禁シテ之ヲ離隔シ充分ニ良藥ヲ服用セシメザル為メ衰弱死ニ至ルト称シ本邦移民一同該医師ヲ斥ケ売藥ヲ服シ自由ニ食餌ヲ取りタル為メ忽チ數人ノ死亡者ヲ出シ日本人間ニノミ伝染ヲ盛ナラシメタル事例アリ尚又當國ハ熱帶國ニ属スルヲ以テ原因未発見ニ属スル風土病ノ數多キモ當國ノ医師ニシテ此等ノ研究ニ従事スルモノ無之ニ付將來我移民ヲ誘入セントセバ移民会社出張員中ニ適當ナル一名ノ医師ヲ置キ常ニ移民ニ

對シ衛生上ノ指導ヲ与フルト共ニ風土病ヲ研究シ之ニ對スル予防ノ方法ヲ示教スルノ必要有之候本件ハ唯々ニ我移民ノ幸福ナルノミナラズ我移民事業ノ声価ヲ發揚スル良好ノ策ナリト思考致候現ニ「イグアペ」ニ於ケル我拓殖会社北島醫師ガ同郡ニ於ケル風土病ヲ研究シ十二指腸虫ノ為メ住民ノ約半数以上ハ労働ニ堪ヘザル健康状態ニアルコトヲ公表セル為メ同郡民ハ一般ニ同社ヲ徳トシ速カニ日本殖民地ノ完成發達センコトヲ祈リ居候有様ニ有之候

要スルニ移民会社出張所ニ敏腕ナル適當ノ主任ト堪能ナル医師ヲ常置スルハ我移民事業ノ發展上緊要ノ事項ニ有之是非其次期移民誘入再開迄ニ其実行ヲ希望致候処之レガ実行ニハ相當ノ經費ヲ要スル儀ニシテ現在ニ於ケル移民会社ガ各自此種ノ施設ヲナスハ殆ンド不可能ナラント存セラルルヲ以テ目下現ニ在伯機關ノ統一セル此際渡伯移民ヲ取扱フヘキ移民取扱人ヲ移民保護法第十五条ノ二ノ組合又ハ其他ノ方法ニヨリ具体的ニ之ヲ連合セシメ當國ニハ將來唯一個ノ共同移民取扱店ヲ置クコトトシ確實ナル一定ノ方針ニヨリテ其營業ニ従事セシムルコトト致度然ルトキハ上記諸種ノ積極の事業ヲ遂行スルノ便宜アルハ勿論群少移民会社ノ

競争暗闘ヲ防キ關係者一同協力シテ事業ノ繁栄ヲ期スルヲ得ヘキ次第ニ付右ニ對シ何分ノ御詮議相遂ケラレ候様致度此段及稟請候 敬具

本信写在伯公使ニ送付

三二三 三月二十二日

幣原外務次官ヨリ  
北海道庁長官警視總監各府県知事宛

伯國呼寄移民ニ對スル証明書ノ有効期限二閱

スル件

通令送第一三九号

伯刺西爾國サンパウロ州内ノ農場ニ定住セル移民ガ本邦ヨリ其家族若クハ親戚等ヲ寄呼スル為メ在サンパウロ帝國總領事ヨリ呼寄証明ヲ受ケ在本邦關係者ヘ送付セルモノ多數有之候処該呼寄証明書ハ客年五月發給ノ分ヨリ一カ年半ヲ經過スル時ハ効力ヲ失フベク其以前發給ニ係ル分ハ右有効期限ニ抛ラズ個々ノ渡航出願ニ對シ呼寄ノ關係現在繼續シ居ルヤ否ヤ事情ヲ審案シ許否ヲ決スルコトニ御取扱相成度尚ホ此以外ノ呼寄証明ニ関シテハ移民非移民ノ別ナク前示有効期限ノ制限ヲ準用セラルベキモ呼寄ニ非ザル証明即チ再渡航証明等ニ對シテハ有効期限ヲ付セザルコトニ御処理

相成度依命此段申進候也

三二四 三月三十一日 石井外務大臣ヨリ  
在サンパウロ松村総領事宛

伯国呼寄移民ニ対スル証明書ノ有効期限二閱  
スル件

通送第七号

本件ニ関シ客年十二月九日附第一〇号電報ヲ以テ御問越相  
成候ニヨリ同年十五日附第一〇号ニテ返電致置候処地方長  
官ニ対シテハ本件処理方別紙写ノ通り通牒致候条委曲右ニ  
テ御了知相成度候尚該通牒ニ於テ呼寄証明書ノ有効期限ヲ  
一ケ年半トナシタルハ伯国ノ遠隔ナルガ上ニ交通不便ナル  
ニ因リ貴官ノ御意見ニテハ一ケ年ヲ適当トセラレシヲ半ケ  
年延長シタル次第ニ有之候又客年五月以前発給ニ係ル呼寄  
証明書ニ付テハ右有効期限ニ拠ラズ個々ノ渡航出願ニ対シ  
呼寄ノ関係現在継続シ居ルヤ否ヤ事情ヲ審案シ許否ヲ決ス  
ル取扱トナシタルハ南米植民株式会社等ニテ「イグアペ」  
植民地行移民ヲ取扱ヒ其序ヲ以テ呼寄移民ノ渡航ヲモ取扱  
ハントスル希望アルニヨリ旧呼寄証明書ヲ全然無効トスル  
時ハ右被呼寄者ハ大部分渡航スルコトヲ得ザルベク且予告

東洋移民合資会社

社長 川田 鷹

南米植民株式会社

社長 水野 竜

森岡移民合名会社

社長 保田 亀太郎

外務省通商局長

坂田重次郎殿

甲号

大正五年三月三十一日発

組合ヨリ田口道造へ宛テタル電報

外務ノ勧誘ト公認ノ下ニ東洋移民南米森岡ノ三社合同シテ  
ブラジル移民組合ヲ設ケ今後単独ノ運動ヲ廃止シ組合ノ名  
義ヲ伯国全体ニ対スル移民業経営ノコトニ決セリ右ハ予テ  
ノ宿題ナル統一案ノ実現ナリ差当リ右ノ事実州政府及在外  
公館ニ届出テ現政府ノ交迭ヲ待チ組合名義ヲ運動開始セヨ  
四月一日以後貴所員一同ハ組合ノ職員トシテ従事セヨ貴下  
ト豊島ヲ組合ノ正式代表トス森岡関係一切矢崎ヨリ引継ゲ  
矢崎ノミニハ生活上必要ナル程度ニ臨機支給可然委任状其

無クシテ前ニ溯リ呼寄証明書ヲ失効トスルヲ得ザル斟酌モ  
有之右取扱ニ出デタル次第ナルニヨリ旧呼寄証明書ヲ有ス  
ル者ハ現ニ呼寄ノ意思アルヲ表明スル為メ新ニ証明書ノ下  
付ヲ受クル方渡航許可出願上ニ便宜アルベキニ付右趣旨ニ  
テ旧呼寄証明書ハ此際可成更新セシムルコトニ御措弁相成  
度此段申進候也

註 別紙ハ前掲三月二十二日附通合送第一三九号ノ写ナリ省略

三二五 四月五日 川田東洋移民社長外二名  
坂田通商局長宛

ブラジル移民組合組織届出ノ件

附屬書 組合ヨリ田口道造宛及森岡移民合名会社ヨリ矢崎  
節夫宛電報

御届

今般伯刺西爾移民組合組織仕候ニ付テハ去ル三月三十一日  
ヲ以テ組合及森岡ヨリ別紙写ノ通り在聖代理人へ夫々発電  
仕候間此段為念御届申上候也

大正五年四月五日

伯刺西爾移民組合

他詳細訓令ハ至急送ル組合ヨリ五月始メ神谷立チ行ク本件

外務ヨリ公使へ電アル管此訓電了解次第電

乙号

大正五年三月三十一日発

森岡移民合名会社ヨリ矢崎節夫へ宛テタル電報

本社ハ今回東洋及南米両社ト合同シ以後伯国移民組合ノ名  
義ヲ協同経営スルコトニシタ委細田口ヨリ聞キ総テ引継ゲ  
当座必要ノ生活費ノ支給方ニツキテハ田口ニ謀レ組合代表  
者近々渡航ノ上万事決定スル

三二六 四月七日 在サンパウロ松村総領事ヨリ  
石井外務大臣宛

可適労働移民ノ年令延長ノ件

公第二二号 (六月十四日接受)

大正五年四月七日

在サンパウロ

外務大臣男爵 石井菊次郎殿  
総領事 松村 貞雄

当州移民法ニ依レバ可適労働移民ノ年齢ハ十二歳以上四十  
五歳以下ノ処本月五日附官令第二六五三号ヲ以テ当分之間

一一 「ブラジル」移民関係難案 三二七 三三八 三三九

五十歳迄延長スル旨公布アリタリ右御参考迄申進候 敬具

三二七 四月十三日 坂田外務省通商局長ヨリ  
福島県知事宛

氏名詐称渡伯移民二関スル件

通送第二二八五号

本件ニ関シ別紙写ノ通り在サンパウロ松村総領事ヨリ報告ノ次第有之候ニ付氏名詐称渡伯ノ事実御精査ノ上之ニ対スル処分方御回報相成度此段申進候也

註 別紙ハ前掲三一九及三二〇両文書ノ全文ナリ省略ス

三二八 四月二十四日 在サンパウロ松村総領事ヨリ  
石井外務大臣宛

前州農務長官北米旅行及日本移民状態視察ノ

件

第七号

前農務長官「モラエスバルロス」両三日前当地出發智利ヲ經テ北米漫遊ノ途ニ上レリ我移民状態ヲモ視察スヘント察セラレ

三三〇

三五〇

三二九 四月二十六日 在伯国畑公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

前州農務長官ノ北米旅行二関シ行動監視方二

付稟請ノ件

第一三号

排日思想ヲ懐ク「サンパウロ」前農務長官 Barros 太平洋沿岸ヲ經テ桑港ニ到リ夫レヨリ北米及加那太各地漫遊多分本邦ヘモ赴ク由ニテ過日出発シタルガ同人ハ在任中加州排日取調ノ為人ヲ派シタル關係アルニ付多分排日事情ヲモ取調フヘク察セラルルニ付不取敢關係領事館ヘ同人旅程ヲ通知シ行動監視方依頼シ置キシモ右ニ関スル訓令最近便ニテ北米及加那太各領事館ヘ御発送アリタシ

三三〇 四月二十八日

石井外務大臣ヨリ  
在米國珍田大使並に米及加那太各領事及領事宛

伯国前州農務長官ノ北米視察二関スル件

通合機密送第六号

前サンパウロ州農務長官「モラエスバルロス」ハ両三日前出發智利ヲ經テ北米漫遊ノ途ニ上リタル処同時ニ本邦移民状態ヲモ視察スベシト察セラルル旨在サンパウロ松村総領

事ヨリ本月廿四日發電報ヲ以テ報告ノ次第有之候ニ就キ本邦人貴地方漫遊中若シ適當ノ機会アラハ日本人ニ対シ有利ナル觀察ヲ下スヘキ様便宜ト材料トヲ供与セラルル様致度此段為念申進候也

送附先、在米大使及在米各総領事及領事

三三一 五月四日 在伯国畑公使ヨリ  
石井外務大臣宛

前州農務長官北米及本邦視察二関スル件

機密公第五号 (七月二十日接受)

大正五年五月四日

在伯

特命全權公使 畑 良太郎(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

今般北米合衆國加奈太並ニ本邦視察ノ途ニ就キタル「サンパウロ」州前農務長官 Moraes Barros ガ旅行中ノ行動監視方ニ関シ客月式十六日附第一三号拙電ヲ以テ要領申進置候次第有之候処同人ハ夫人並ニ案内者米人 Ruth Kennedy 嬢同伴四月拾八日「サンパウロ」出發「ブエノス、アイレス」「サンチアゴ」ヲ經テ「クルパライン」ヨ

一一 「ブラジル」移民関係難案 三三一

三五二

リ海路桑港ニ至リ同地ヲ中心トシテ北米太平洋沿岸諸地方ヲ視察シ「ニュー、オルレアンス」「フロリダ」等ヲ經テ來ル七月中紐育ニ入り加奈太經由再ビ桑港ニ引返シ相成ルベクハ日本ヘモ一遊ノ上全行程約六ヶ月ノ見込ニテ帰國スヘシト内報ニ接シタルガ一昨年以來屢次ノ報告ニヨリ御承知ノ通り同人ハ予テ排日ノ志操ヲ抱キ一昨年本邦移民ヲ除外スル法案ヲ議會ニ提出スヘント放言シ歐洲移民ニ与フル法律上ノ利益恩恵ハ日本移民ノ享受ヲ許スベキニ非ズト主張シタルコトアルノミナラス曩ニ人ヲ加州ヘ特派シ同州ノ排日情態ヲ研究セシメタル等ノ事情モアリ旁々今般ノ視察旅行モ或ハ將來當國ニ於ケル排日材料ノ蒐集ヲ主タル目的トナセルニ非ザルヤト察セラレタルニ付キ不取敢右等ノ事情書面ヲ以テ本使ヨリ直接旅行地各領事ヘ具報シ同人カ旅中ノ行動監視方依頼シ置キタルト共ニ前記往電第一三号ヲ以テ右ニ関シ更メテ閣下ヨリ關係各領事ヘ御発調方及稟請置候次第有之候処同人ハ尚ホ北米、加那太各地視察ノ後相成ルヘクハ日本ヘモ一遊ノ希望ヲ有シ居リ本邦行ノコトハ或ル程度迄秘密ニ致シ居ル様子ニテ確否今ニ分明ナラザルモ案内者 Ruth Kennedy 嬢カ元竹村移民館代理人永

島藤三ノ妻ニ本邦知人宛紹介状ヲ求メタルニ徴スルトキハ多分来朝ノコトト察セラレ候ニ付若シ同人貴着ノ節ハ以上ノ御含ミニテ相当御歓迎御懷柔方可然御取計相成度往電疏通旁々為念此段申進候 敬具

追テ「モラエス、バルロス」氏ハ尚春秋ニ富ム将来アル政治家ニシテ一昨年氏ノ発表シタル排日志操ハ「グリセリオ」「ルビオン」等元老株政治家ノ制肘ノタメ之ヲ実行スルコトヲ得ザリシモ今般更ラニ北米ニ於ケル排日事情ヲ研究シタル上ハ今後如何ナル態度ニ出ヅルヤ予測シ難ク或ハ当國ニ於ケル排日カ今回氏ノ旅行ニ胚胎スルコトトナルナキヲ保セズ頗ル重視スベキ問題ト思考被致候条此段御含ミニ迄ニ申添候

三三二 五月十三日

在サンパウロ松村総領事ヨリ  
石井外務大臣宛

来伯自由移民旅費還附二関スル件

通公第三〇号

大正五年五月十三日

在サンパウロ

総領事 松村貞雄(印)

三三四 五月十八日

石井外務大臣ヨリ  
在米國珍田大使宛(電報)

伯国前州農務長官ノ北米旅行旅程変更ノ件

第五七号

四月廿八日附通合機密送第六六号ニ関シ Barros ハ旅程ヲ變更シ五月廿四、五日頃紐育着ノ予定ナリ右在米及加奈陀各領事官(ホノルルヲ含ム)ニ転電アレ

三三五 五月十九日

在伯国知公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

自由移民渡航費償還ニ関スル件

サンパウロ州政府ハ本月十三日官報ヲ以テ一九一四年九月十六日官令二千五百三十三ヲ廃止シ同十三年六月九日官令ノ条件ヲ具備スル自由移民ニ対スル渡航費償還ヲ復活セリ  
右御含迄

三三六 五月二十日

外務省通商局ヨリ  
伯刺西爾組合宛

自由移民渡航費償還復活ニ付通知ノ件

通送第四一三号

東京市京橋区三十間堀三丁目十八番地

一 「ブラジル」移民関係難纂 三三四 三三五 三三六

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

来伯自由移民旅費還付ニ関スル規定ハ当初一九一三年六月九日附官令第二四〇〇号ヲ以テ公布セラレ其後一九一四年九月十六日附官令第二五三三号ヲ以テ之ヲ廃止シ今日ニ及候処昨十二日附官令第二六六八号ヲ以テ更ニ前頭官令二五三三号ヲ廃止シテ官令二四〇〇号規定ニ相当スル自由移民ニ対シ復ビ旅費ノ還付ヲナスベキ旨公布相成此間此段為御参考申進候 敬具

追テ前記官令二四〇〇号ニ就イテハ公布當時在伯公使館ヨリ報告相成居ル筈ニ付為念申添候

三三三 五月十七日

在伯国知公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

前州農務長官旅程変更ノ件

第一六号

往電第一三三号ニ関シ同人ハ旅程ヲ變シ本月二十四五日頃紐育着ノ予定ナレハ同地及市俄古「オタワ」領事へ電訓ヲ發セラレタシ

水野竜方 伯刺西爾組合宛

本月十九日在伯知公使ヨリサンパウロ州政府ハ本月十三日官報ヲ以テ千九百十四年九月十六日官令二千五百三十三ヲ廃止シ同十三年六月九日官令ノ条件ヲ具備スル自由移民ニ対スル渡航費償還ヲ復活セル旨電報有之候ニ付此段及御通知候也

三三七 六月二日

在サンパウロ松村総領事ヨリ  
石井外務大臣宛

大正四年中サンパウロ州入国移民ニ関スル件

通公第三二二号

大正五年六月二日

在サンパウロ

総領事 松村貞雄(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

歐洲戦乱ノ結果当州入国移民ノ数頓ニ減少シ大正二年ノ七万二千四百九十八人ニ対シ大正三年ニ於テハ実ニ六千二百四十八名ニ過ギザリシガ、今サントス移民局及当市移民收容所発表ノ報告ヲ総合シ大正四年同州移民ヲ調査スルニ左ノ如シ

三三七

三五三

| 国籍     | 人員    | 国籍    | 人員     |
|--------|-------|-------|--------|
| 葡萄牙人   | 五、八二八 | 伯刺西爾人 | 五、三二三  |
| 西班牙人   | 四、三六九 | 伊太利人  | 四、一八四  |
| 土耳其人   | 二九〇   | 獨逸人   | 二一六    |
| 露西亜人   | 一七二   | 仏蘭西人  | 八三     |
| 塊地人    | 八二    | 亜爾然丁人 | 七四     |
| 日本人    | 六四    | 希臘人   | 四七     |
| 英吉利人   | 三一    | 白耳義人  | 二七     |
| ウルガイ人  | 二三    | 支那人   | 二一     |
| 其他諸名国人 | 一一三   |       |        |
| 合計総数   |       | 合計総数  | 二〇、九三七 |

即入州移民総数二万九百三十七人ニシテ、内外人一万五千四百十四人ナルガ此外国人ハ必ラズシモ各本国ヨリ渡来シタルモノニアラズ、伯国他州又ハ他外国ヨリ転入シタルモノヲ含ム、本邦人ノ如キモ大多数ハ此部ニ属スルモノナリ  
出発地ニヨリテ区分スレバ左ノ如シ

| 出発地  | 人員    | 出発地  | 人員    |
|------|-------|------|-------|
| 伯刺西爾 | 六、五八五 | 葡萄牙  | 四、八一  |
| 亜爾然丁 | 三、九五五 | 西班牙  | 二、六四八 |
| 伊太利  | 二、三一八 | ウルガイ | 三二七   |
| 仏蘭西  | 一一二   | 和蘭   | 五二    |

モノナリ、然レドモ珈琲労働其他ニ適セズ各耕地ハ依然トシテ労働者ノ不足ニ苦シム現状ナリ  
右及報告候 敬具

三三八 六月十四日 在紐育赤松総領事代理ヨリ  
石井外務大臣宛  
伯国前農務長官ノ行動ニ関スル件 (七月十日接受)  
機密公第二五号

大正五年六月十四日 在紐育

外務大臣男爵 石井菊次郎殿  
総領事代理 赤松祐之(印)

伯国サンパウロ州前農務長官エム、ベラス氏ノ行動注意方ニ関シ四月廿八日附通機密合送第六号貴信及在米大使館宛閣下発貴電第五七号ヲ以テ御来示ノ次第敬承本件ニ関シテハ在伯畑公使ヨリ直接当館ニ委曲申越ノ次第モ有リ旁々注意致居候処同人ノ来往及当地ニ於ケル行動ニ関シテハ新聞紙等ニモ何等記載スル処無ク当館ニ於テモ何等探知スルヲ得ザリシニ依リ左様御承知相成度此段回報申進候 敬具

北米合衆 一六一 英吉利 一五  
其他 一〇八  
合計 二〇、九三七

即チ外人総数一万五千四百十八人中外国ヨリ渡来シタル数ハ一万四千三百五十二人ナリ  
入州総数二万九百三十七人中家族移民ハ二千八百家族一万二千六十人ニシテ他ノ八千八百七十七人ハ単独移民ナリ、更ニ男女及年齢別ニヨレバ、男子一万三千四百九十三、女子七千四百十四。満十二才以上一万五千七百九十三人ニシテ十二才以下五千四百四十四人ナリ、而シテ総数中一万三千八百八十人即約半数ハ農業移民ナリトス

此等移民ノ殆ド全部ハ「リオ」港上陸鉄路入州スルカ或ハサントス港ニ上陸スルモノナルガ、前掲総人員中「サントス」港上陸者ハ一万六千六百十八名ニシテ此内州政府補助金ヲ受クベキモノ二千七百十人、其他ハ悉ク自由移民トス尚ホ当国人ニシテ入州シタル五千有余名中其大部ハ北方「セアラ」州土人ナルガ、当州内部ニ於テ甚シク農業労働者ノ欠乏ヲ感ゼル時ニ当リ「セアラ」州地方稀有ノ大飢饉アリ乃チ一挙兩得ノ策トシテ中央政府補助ノ下ニ移入シタル

本信写送付先 在米大使

三三九 七月八日 在伯国畑公使ヨリ  
石井外務大臣宛

グリセリオ及ルビオン両氏ノ展墓ニ関スル件 (九月六日接受)  
公第二九号

大正五年七月八日

在伯

特命全權公使 畑 良太郎  
外務大臣男爵 石井菊次郎殿

曩ニ「モラエス、バルロス」氏ガ「サンパウロ」州農務長官在職中同州法上歐洲移民ニ与フル各種ノ利益ハ日本移民ニ対シ与フヘキモノニ非ザル旨文書ヲ以テ本邦移民会社ニ通達スルト共ニ日本人除外ニ関スル法律案ヲ州議會ニ提出スヘシト放言シタル際故「フランシスコ、グリセリオ」ハ本件非公式解決方法ヲ贊助ノ州上院議長「ルビオン、ジュニオル」ト共ニ非常ニ斡旋尽力シ遂ニ前政府ヲシテ前議ヲ飜シ日歐移民均等待遇ノ言明ヲナスノ止ムヲ得サルニ至ラシメタル次第ハ屢次及報告候通りニ有之候処今般本使「サンパウロ」出張ニ際シ右両氏が墓ヲ展シ追悼ノ意ヲ表スル

ノ情切ナルモノアリ六月三日耕地ヨリ「サンパウロ」市ヘノ帰途特ニ「カンピナス」市ニ迂回シ同市市長ノ嚮導ニテ「グリセリオ」氏ノ墓ニ到リ「サンパウロ」ニ於テ特製セシメ置キタル大花輪ヲ供シ悼詞ヲ述ヘテ聊カ氏カ生前ノ功勞ヲ頌シタルニ同市長ニハ多大ノ感動ヲ与ヘタルモノノ如ク翌日同市並ニ「サンパウロ」市ノ諸新聞ハ何レモ其記事ヲ掲載セリ又六月七日在「サンパウロ」市「ルビオン」氏ノ墓ニ詣テ同シク花輪ヲ供シ悼詞ヲ述ヘタルニ現統領附秘書官タル氏ノ嗣子ヨリ厚ク謝意ヲ表サレ候

以上ノ展墓ハ両氏生前本邦ニ対スル好意ト功績トヲ追想シタル哀情ノ發表ニ外ナラサリシモ「グ」氏ハ政界元老「ル」氏ハ今期統領タルヘカリシ人ニシテ目下聖州ノ政界就中政府党内ニハ両氏ノ幕下多数ヲ占メ居リ此等ノ人士間ニ多大ノ好感ヲ与ヘタル趣伝聞致候

右及報告候 敬具

三四〇 七月二十四日 石井外務大臣ヨリ  
在桑港植原総領事宛(電報)

伯国前農務長官本邦来遊ノ日取等電報方ノ件

第一八号

波常三郎ノ呼寄証明書取消並氏ニ名詐称渡伯ニ関シ御通牒ノ趣了承左記ノ通ニシテ各関係者取調ノ上外国旅券規則第十九第一項第一号違犯トシテ四月二十八日所轄検事ニ送致候処五月十日福島区裁判所ニ於テ右頭書ノ通処刑相成候条此段及回答候也

追テ小野豊藏ヨリ岸波常三郎呼寄証明書徴収候ニ付及送付候

記

福島県伊達郡湯野村字湯ノ上三十九番地平民

一、罰金貳拾円 岸波 伴治 当四十五年

同所(伴治孫) 伴吉養子

一、不起訴 岸波 徳七 当十九年

同所(伴治長男)

当時伯刺西爾国サンパウロ在留

一、中止不起訴 岸波 伴吉 当二十六年

同所(伴治三男)

通合機密送第六六号 Botros 若シ本邦来遊ノ際ハ船名到着日取等予メ電報アレ

右本大臣訓令トシテシヤトル及晚香坡領事ヘ転電アレ

三四一 八月九日 石井外務大臣ヨリ  
在サンパウロ松村総領事宛

氏名詐称渡伯移民ニ関スル件

通送第二六号

本件ニ関シ本年一月五日附公第四号ヲ以テ御申越ノ次第有之候処今回福島県知事ヨリ岸波常三郎呼寄關係ニ付別紙写ノ通り通報有之候条委曲右ニテ御了知相成度此段申進候也  
追テ貴館ヨリ発給ニ係ル岸波常三郎呼寄証明書ハ当省ニ保留致シ置キ候

(別紙)

辰保收第五〇三八号

大正五年七月二十七日

福島県知事 川崎 卓吉

外務省通商局長 坂田重次郎殿

氏名詐称渡伯移民ニ関スル件

本年四月十三日附通送第二二八四号ヲ以テ在伯本県移民岸

当時伯刺西爾国サンパウロ在留

一、中止不起訴 岸波 常三郎 当二十一年

一、右違犯者ノ内伴吉ハ明治四十五年中竹村与右エ門取扱第三回移民トシテ南米伯国行渡航ニ際シ家族構成ノ必要

上弟徳七ヲ養子トシテ伴吉及妻ヨツノ三名ニテ出願同年

二月十二日渡航許可並ニ旅券ノ下付ヲ得タルモ養子徳七

ハ当時僅カニ十六歳ニシテ労働ニ従事スルハ困難ナルヲ

以テ父伴治ト共謀ノ上徳七ノ兄即チ常三郎ヲシテ徳七ト

詐称セシメ徳七名義ノ旅券ヲ使用セシメ家長伴吉ノ家族

トシテ渡航シタルモノナリ然ルニ常三郎ハ本年徴兵適令

ニ達シ体格検査ヲ受ケサル可カラサルニ至リタルモ常三

郎ハ徳七ノ名ヲ騙リ渡航シ居ルヲ以テ右違反事実ヲ糊塗

センニハ更ニ徳七ヲ常三郎トシテ渡伯セシメ然ル後常三

郎ノ徴兵猶予ノ手続ヲ為サン目的ヲ以テ親族タル伊達郡

伏黒村小野豊藏カ同国ニ在留シアリテ従来内地ト書信ノ

往復諸般ノ手続上便宜ヲ与ヘアリシヲ以テ同人ニ常三郎

(実ハ徳七)ノ呼寄ヲ依頼シ客年九月二十三日附呼寄証

明書ノ下付ヲ受ケタルモノナリ尚徳七八郷里ニ於テ徴兵

検査ヲ受クルニ於テハ發覺ノ虞アルヲ以テ山形県南村山郡上ノ山町ノ知人大内善四郎方ニ寄留セシメ同年四月二十四日南村山郡徴兵署ニ於テ徴兵検査ヲ受ケタルモノナリ

以上

三四二 八月二十日 在伯国知公使ヨリ  
石井外務大臣宛

日伯直通航路ニ補助金支給方稟申ノ件

通機密第一〇号

(十月十八日接受)

大正五年八月二十日

在伯

全權公使 畑

良太郎(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

南米大西洋沿岸諸地方ニ対スル我が国力扶植ノタメ特ニ將來当國ニ於テ發展ノ見込顯著ナル我移民ノ渡航ヲ容易ナラシメ且輸送困難ノタメ荷不足勝ナル我商品ノ販路ヲ擴張スルガタメ其基礎的設備トシテ速カニ本邦ヨリ当地地方ニ至ル直通定期航路ヲ開始セシムルノ要アルコトハ兩三年以來屢々具陳ノ通りニ候処右ハ近時漸ク世人ノ注意ヲ喚起シ來

リシモノノ如ク曩ニ中川通信書記官及八木農商務書記官來伯ノ節モ相当本問題ヲ考究シタル結果實際問題トシテハ彼我現今ノ貿易關係ハ到底獨立ニ航路維持ノ基本トナラザルベキモ當國ニ至ル移民ノ輸送ヲ以テ本件考量ノ基礎トナスニ於テハ実行決シテ不可能ナラサルヘク兎モ角モ本件ハ近キ將來ニ於テ是非トモ実行セサルヘカザルモノナリトノ信念ヲ得テ歸朝致候様子ニ有之又最近大阪商船会社ニ於テ南阿経由当地諸港ニ至ル直通航路開始ノ目論見アルヤニテ同社ヨリ兩名ノ視察員渡來「ブエノス・アイレス」「リオ」「サンパウロ」等ニ於テ一兩月視察ヲ試ミタルカ同視察員ハ当初本件ニ関シ移民ノ輸送カ仮令確的ナラサル迄モ実行差シテ困難ナラザルヘキヤニ觀測シ居リタル由ナルモ同人等ノ當國滞在中恰カモ別信所報ノ通り我移民新誘入ノ運動落着ヲ見ルニ至リタルヲ以テ此際是非トモ同社ニ於テ該移民ノ輸送ヲ引受ケ之ヲ機會トシテ定期航路ノ開始ヲ決行セサルヘカラストテ其旨当地ヨリ本社ニ打電シタルノミナラズ取急キ歸社ノ上同社当路ニ勸告スベシトテ本月中旬当地出發歸朝ノ途ニ就キ申候

元來本邦ヨリ南米東海岸ニ至ル直通航路ノ經營ニハ当分ノ

中本邦ヨリノ移植民輸送ヲ以テ其基礎トセサルベカラザルハ殆ソド万人ノ一致スル所ニシテ今般落着ヲ見ルニ至リシ移民新誘入ノ運動ニ際シテハ特ニ此点ヲ考量シ現ニ州政府ヨリ一年切り一万人ノ誘入方申込アリタル際ノ如キ假令年々ノ誘入人員ハ減少スルモ是非數年ニ亘ル繼續事業トナシタキ希望ヲ述ヘ遂ニ毎年五千人ヲ限り二ケ年乃至四ケ年間繼續ノ誘入契約ヲ得ルニ至リタル次第ニシテ本件航路ノ基礎トナルベキ移民誘入運動カ特ニ此ノ如ク好都合ノ条件ヲ以テ落着ヲ見ルニ至リタル今日ナレハ此際是非トモ本航路ノ開設ヲ断行シ將來当方面ニ於ケル我秩序の發展ノ基礎ヲ作り置クノ要アルヘシト存シ候

而シテ本邦ノ當國其他南米東海岸諸港ニ対スル經濟關係カ未ダ甚タ密切ナリト云フヲ得ザル結果本航路ノ如キモ自然ノ成行ニ放任スルニ於テハ偶々一二有志ノ之ヲ試ムルモノアリトスルモ当初ヨリ一定ノ収益ヲ確保スルコトハ当分至難ノ業ナルヘク從ツテ折角ノ試ミモ何等確定ノ地盤ヲ得ルニ至ラズシテ断念ノ已ム無キニ至ルヘキハ賭易キ道理ニシテ本件航路ノ存立カ我国力發展上重要ナル基礎手段ノ一トシテ承認サルル以上國家カ本航路ニ対シ相当ノ補助金ヲ支

接我一般通商関係ノ進歩ヲ促スニ至ルヘキハ論ヲ待タサル義ト存シ候

叙上ノ如ク本件日伯直通航路ハ国家ノ補助ノ下ニ定期航路トシテ存立セシムキ充分ノ理由アルノミナラズ今ヤ其存立ノ基礎ト認メラル、我移民輸送モ愈々明年度ヨリ継続的ニ開始サルルノ運ビニ至リタル次第ナレバ此際是非トモ之レカ開設ヲ断行セシムルノ必要有之候ニ付關係官庁トモ御協議ノ上可相成ハ明年度ヨリ初メ少ナクモ四五年間本航路ニ對シ国庫ヨリ相当額ノ補助金支給相成候様御尽力相成度此段及稟申候 敬具

三四三 八月二十三日

在サンパウロ松村総領事ヨリ  
石井外務大臣宛 (電報)

ブラジル移民組合ガ本邦移民輸入ノ認可ヲ得タル件

第一五号

「ブラデル」移民組合ハ Antunes 商会ノ有スル特權ノ一部ヲ讓受ケ一人九磅ノ補助ヲ得テ向フ四年間毎年五千人ツツ本邦移民ヲ当州ニ輸入スルノ認可ヲ得タル旨政府ノ認可書ヲ添へ本月二十三日届出ツ 委細公信

三四四 八月二十四日

在サンパウロ松村総領事ヨリ  
石井外務大臣宛

ブラジル移民組合ガ認可ヲ得タル移民ノ家族構成ニ関シ報告ノ件

公第四八号

(十月十八日接受)

大正五年八月廿四日

在サンパウロ

総領事 松村 貞雄 (印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

今回伯国移民組合ガ州政府ヨリ得タル補助誘入ノ認可条件中家族ノ構成ハ十二歳以上五十歳以下ノ可適労働者三名以上ヨリ成ルコトヲ必要トシ右家族構成者ハ(一)、夫婦、(二)、実子、養子及養子、(三)、家長又ハ其妻ノ兄弟姉妹、(四)、家長又ハ其妻ノ甥姪、(五)、家長又ハ其妻ノ從兄弟姉妹、(六)、家長又ハ其妻ノ叔伯父、叔伯母ヨリ成ルモノト規定セラレ候処右ノ内家族ノ中心タル夫婦及其養子ニ関シテハ從來屢々申進候通り単ニ渡航資格ヲ作ル為メ法律上ノ手續ヲナスニ止リ實際夫婦又ハ養子ノ關係ヲ有セザルモノハ渡來後直チニ家族ノ分解ヲ來タシ其弊害少ナカラズ候ニ付新婚夫婦

ニ関シテハ充分綿密ナル調査ト嚴密ナル取締トヲ以テ偽稱者ノ渡航ヲ妨止セラレ度養子ニ関シテハ相当ノ年限内既ニ實際親子ノ關係アリタルモノニ限り其内十二歳未滿ノモノハ家族構成ノ資格ナキ上ニ募集人ガ手教料ヲ得ル能ハサル關係上強テ此等ノ者ヲ以テ偽稱養子トスルコト可無之ト存候ニ付此種ノモノニ對シテハ多少寛大ノ取扱ヲナスモ大ナル弊害ヲ生セザルベシト相考候ニ付爾今右ノ趣旨ニヨリ御取締相成候様致度此段申進候 敬具

三四五 八月二十四日

在サンパウロ松村総領事ヨリ  
石井外務大臣宛

補助呼寄移民ノ資格ニ関シ報告ノ件

公第四九号

(十月十八日接受)

大正五年八月廿四日

在サンパウロ

総領事 松村 貞雄 (印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

今回移民組合ガ州政府ヨリ得タル補助誘入認可書中補助呼寄移民ノ項有之右ハ一見總テノ呼寄移民ニ補助ヲ給スル様相見エ候得共呼寄移民ハ移民法第百〇一条ニヨリ自己ノ父

母ト同居スル為メ渡來スル年齢廿一歳以下ノ独身男女子ニ限り且ツ法令ノ定ムル形式ニヨリ予メ補助呼寄ノ許可ヲ得タルモノニ限ル次第ニ有之其以外ノモノハ總テ自費渡航ニ屬シ候間右様御了承相成度為念右申進候 敬具

三四六 八月二十六日

在シアトル高橋領事ヨリ  
石井外務大臣宛

伯国前州農務長官ノ訪日計画ニ関スル件

機密通公第四四号

(九月十八日接受)

大正五年八月二十六日

在シヤトル

領事 高橋 清一

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

予テ外務大臣及在伯烟公使ヨリ御注意ノ伯国サンパウロ州前農務長官 Moraes Barros 夫妻ハ本月廿三日シヤトル着新聞紙報道ニ依レバ先ズアラスカヲ見物シテ後日本ニ赴キ日本ヨリ帰途桑港ニ着シ米國本部ヲ視察スル計画ニ有之候依テ郵船及商船々客申込名簿取調シメ候処今ニ何等申入ナク從テ同氏アラスカヨリ帰着後ハエムプレス線ニテ渡日スルヤモ不計ト被察候若シ同人シヤトルヨリ出帆ノ節ハ早

速電報可致候 敬具

本信写送附先 桑港、晚香坡

三四七 八月三十一日 在ヴァンクーヴァー阿部領事ヨリ  
石井外務大臣宛

伯国前農務長官ノ動靜報告ノ件

通機密公第二一号 (九月十九日接受)

大正五年八月三十一日

在晚香坡

領事 阿部 嘉 八

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

前「サンパウロ」州農務長官「モラエス、バルロス」  
(Mores Barros)ノ動靜ニ関シ注意方本年四月二十八日附  
通機密合送第六六号ヲ以テ外務大臣ヨリ訓令ノ次第有之候  
処同長官夫妻ハ本月二十三日シヤトル着新聞紙ノ報道ニヨ  
レハ先ツ「アラスカ」ヲ見物シテ後日本ニ赴キ日本ヨリ帰  
途桑港ニ着シ米国本部ヲ視察スル計畫ニテ或ハ当地ヨリ  
Empress 線ニテ渡日スルヤモ計ラレサル旨在シヤトル高  
橋領事ヨリ來信有之候ニ付為念 C.P.R. 会社へ問合せ置  
キタルニ果シテ九月七日当地帆九月十八日横濱着ノ予定ナ

客年五月一日以後在サンパウロ帝國總領事ノ発給ニ係ル伯  
国行呼寄移民証明書ハ其有効期限ヲ一ケ年半ニ限定スルコ  
トト相成居其数当方調査ニ依レハ客年末迄ニ百三十七件有  
之候処客年五月一日以前ノ発給ニ係ル証明書ニ関シテハ呼  
寄關係ノ現ニ継続セルモノニ限り可成新証明ニ之ヲ引替ヘ  
タル後渡航ヲ許可スルコトト相成居候ニ付實際伯国ニ渡航  
スヘキ呼寄移民ノ数ハ要スルニ僅々数百ヲ出テサルモノト  
思考致サレ候ノミナラズ最近本邦移民渡伯新契約ノ成立ヲ  
見ルニ至リタル以上伯国ニ於ケル事情モ著シク改善シタル  
モノト存セラレ候間今後特別ノ事情ナキ限り便船次第隨時  
渡航許可ノ方針ニ有之候条右様御承知相成度若シ万一当分  
尚ホ之ヲ差止ムルコトヲ可トスル特別ノ理由モ有之候ハ其  
旨至急御報申候相成候様致度此段申進候也

本信写送付先 サンパウロ松村総領事

(附記)

伯国サンパウロ總領事発給呼寄証明数表

証明発給月日

人員

大正二年 自一月 至九月

四〇三

Empress of Asiaニ船室ヲ予約シ居ル旨判明致候依テ  
外務大臣及在伯畑公使へハ其旨電報致置候右御参考迄此段  
申進候 敬具

本信送附先 在伯畑公使、在米大使、在米各總領事及領  
事

三四八 九月一日 在ヴァンクーヴァー阿部領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

伯国前農務長官ノ本邦着日取報告ノ件

第三六号

通機密第六六号貴信 Barros 夫妻ハ八月二十三日「シアト  
ル」著目下「アラスカ」見物中ノ由ナルガ九月七日 The  
Empress of Asia ニテ晚香坡発九月十六日横濱着ノ予  
定  
在伯公使へ電報セリ

三四九 九月七日 石井外務大臣ヨリ  
在伯国畑公使宛

伯国行呼寄移民ノ渡航許可ニ関スル件

附記 伯国サンパウロ總領事発給呼寄証明数表

通送三〇号

|            |          |       |
|------------|----------|-------|
| 三年         | 自五月 至十二月 | 九七二   |
| 四年         | 自一月 至三月  | 六四    |
| 計          |          | 一、四三九 |
| 大正四年       | 五、六、七月   | 五九    |
| 四年         | 八、九月     | 四一    |
| 四年十、十一、十二月 |          | 三七    |
| 計          |          | 一三七   |
| 合計         |          | 一、五七六 |

三五〇 九月七日 石井外務大臣ヨリ  
在サンパウロ松村総領事宛

伯国行呼寄移民ノ渡航許可ニ関スル件

通送第二七号

本件ニ関シ別紙写ノ通り在伯畑公使へ申進置候次第有之候  
条委細右写ニテ御了承ノ上本件ニ関シ何等貴見モ有之候ハ  
至急御回報セラル、ト同時ニ其写畑公使へ御送付相成候  
様致度此段申進候也

註 別紙前掲ニ付省略

三五二 九月九日 在ヴァンクーヴァー阿部領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

伯国前州農務長官本邦二向ケ出発ノ件

第三七号

往電第三六号ニ関シ Barros 夫妻及令嬢並ニ Miss Kennedy 一行四名ハ九月七日 Asia 号ニテ出発  
在伯公使へ電報セリ

三五二 九月九日 外務省通商局ヨリ  
東洋移民会社川田社長宛

伯国前州農務長官本邦訪問ニ付通知ノ件

拜啓陳者伯国「サンパウロ」州前農務長官「モライス、バルロス」氏ハ夫人令嬢並ニ米国人「ケネデー」嬢同伴ニテ予定ノ通り本月七日英船「エムプレス、オヴ、エシア」号ニ搭乘シ本邦ニ向ケ晚香坡ヲ出発シタル趣在同地帝国領事ヨリ電報ニ接シ候間右様御承知相成度為念此段得貴意候  
敬具

三五三 九月九日 東洋移民会社川田社長ヨリ  
外務省通商局宛

伯国前州農務長官ノ日本訪問通知領承ノ件

大正五年九月九日 東洋移民合資会社  
拜復尊翰拜読仕候伯国「サンパウロ」州前農務長官「モ

リス、バロス」氏一行予定之通り一昨七日「エムプレス、オヴ、エシア」号ニ搭乘本邦ニ向ケ晚香坡出帆ノ旨御通知  
被下拝承仕候  
不取敢貴翰御請申上度如斯ニ御座候 頓首  
川田 鷹

外務省通商局  
御中

三五四 九月二十日 在伯国畑公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

伯国前州農務長官取扱方ニ関スル件

第二七号

サンパウロ前農務大臣 Barros 一行九月十八日横浜着ノ由ナルガ五月四日附機密第五号拙信ノ通り御取計相成度シ

三五五 十月二十五日 寺内兼任外務大臣ヨリ  
在伯国畑公使宛

伯国前州農務長官バルロス氏ノ歡迎ニ関スル件

通機密送第一号

伯国「サンパウロ」州前農務長官「ドクトル、パウロ、モ

ラエス、バルロス」氏来朝ノ上ハ氏が在職中本邦移民ニ関シテ持シタル態度ニ鑑ミ相当歡迎懷柔方取計ハレ度キ旨本年四月二十六日貴電第一三号及五月四日附機密公第五号等ヲ以テ屢次御上申ノ趣了悉仍テ前頭貴電第一三号接受後直チニ在米珍田大使ヲ初メトシ北米合衆国及加奈陀ニ於ケル各地駐在帝国領事ニ対シ適当ノ機会アラバ氏ヲシテ日本人ニ関シテ有利ナル觀察ヲ下サシムル様便宜ト材料ヲ供与セラレ度キ旨訓達シタル外、尚ホ愈々同氏ノ本邦來遊決定セバ其乗船名及本邦到着日取等予メ電報方太平洋岸出船港駐在各帝国領事ヘ電訓シ置キタル処同氏ハ夫人令嬢及家庭教師一名同伴ニテ九月七日晚香坡ヨリ乗船シ本邦ニ向フ旨在同地阿部領事ヨリ電報ニ接シタルヲ以テ予メ横浜税関ニ通牒シテ同月十八日同氏到着ノ際一行ノ攜帶手荷物簡易通関ノ便宜ヲ供与セシメタルヲ初メトシ爾來數日間伯国移民組合、巴西拓殖会社、「カフエー、パウリスタ」等ニ於テ盛シニ歡迎優待シ前任石井大臣ニ於テモ特ニ氏及其家族ヲ官邸ニ招待シテ晚餐会ヲ催シ尚ホ同氏ハ関西地方觀光ノ序ヲ以テ工場等ヲ視察シ度シトノ希望ヲ有シ居タルニ付此機会ニ於テ成ルベク同氏ヲシテ本邦商工業進歩ノ程度ヲ了解セ

シムルコトハ単ニ氏自身ノ本邦ニ関スル觀察ヲ正確ナラシムル益アルノミナラズ今後日伯兩國間ノ貿易關係ヲ密接ナラシムル上ニ貢獻スル所尠カラザルベシト思考セラレ候ニ付農商務省トモ協議ノ上名古屋、京都、大阪及神戸地方ニ於ケル重モナル工場ヲ視察セシムルコトトシ一面府県知事ニ便宜供与方ヲ照会スルト同時ニ他面ニ於テ目下賜暇帰朝中ナル貴館在勤野田一等通訳官ニ地方出張ヲ命シ同氏一行ノ接待役トシテ同行セシメ府当該府県ト隨時設般ノ打合せヲナシタル上工場視察ハ勿論觀覽及一般待遇上ニモ便宜ヲ供与セシメタル結果同氏一行ハ到ルル処地方官民ノ熱誠ナル歡迎優待ヲ受ケ先ヅ名古屋市ニ於テハ日本車輛製造会社、日本撚絲織物会社、日本陶器会社ノ各工場、安藤七宝工場、商品陳列館等ヲ觀覽セシメ次ギニ京都ニ於テハ日本製布会社、川島織物工場、島津製作所、西村刺繡店、商品陳列館等ニ案内シ大阪ニテハ東洋製紙会社、毛斯輪紡績会社、住友伸銅所及大阪鉄工所ノ一部ヲ視察シ又兵庫県下ニ於テハ川崎造船所、鐘淵紡績会社、日本燐寸製造会社、在網干日本「セルロイド」人造絹糸会社(目下専ラ綿火藥製造中)在加古川日本毛織会社、在高砂三菱製紙所等ヲ參觀

セシメタル処氏ハ多大ノ興味ヲ以テ精細ニ觀察シ頻リニ本邦工業發達及職工ノ勤勉ナルヲ賞揚シ且途中目睹シタル所ニヨリテ本邦農民ノ長所ヲ了解シ從來伯國出稼移民ノミヲ見テ下シタル判断ノ中ラザリシコトヲ悟リ従前ニ比シ本邦農夫ニ関シテ遙ニ有利良好ナル意見ヲ抱クニ至レル旨氏自身現ニ前任石井大臣其他ニ向ツテ談話シ且氏ハ本月十四日菲律賓ニ向ツテ神戸ヨリ解纜スルニ際シ特ニ電信ヲ以テ鄭重ナル謝意ヲ表シ来レル等今回我官民ガ同氏一行ニ対シテ表シタル歓迎優遇ノ好意ハ氏ノ心裏ニ頗ル好印象ヲ与ヘタル様見受ケラレ候尚ホ氏ノ一行ハ「マニラ」ヨリ香港ニ渡リ上海ヨリ北京ニ赴キ朝鮮經由ニテ一旦本邦ニ立寄り来ル十一月二十五日横浜發ノ便船ニテ布哇經由桑港ニ向フ予定ナルニ付同行ノ朝鮮及本邦通過ニ際シテハ更ニ相当便宜ヲ計ル筈ニ有之候間右様御了知相成度回答旁此段申進候也  
本信写送附先 在「サンパウロ」松村総領事

註 本信写ハ十月二十五日附寺内臨時兼任外務大臣ヨリ在サンパウロ松村総領事宛通機密送第一号ヲ以テ送附サレタリ

三五六 十月二十八日 在サンパウロ松村総領事ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛(電報)

師タル米國人「ケネディ」嬢ヲ伴ヒ来朝シタル伯刺西爾國「サンパウロ」州前農務長官「ドクトル、パウロ、デ、モラエス、バルロス」氏ハ約三週間内地ヲ旅行シタル後客月中旬菲律賓群島ニ向ケ出發シ目下香港上海方面旅行中ニシテ不日北上シテ北京ニ入り本月十二日頃汽車ニテ北京出發貴地ニ向ケ直行シ兩三日滞在ノ上再ビ本邦ニ立寄り帰國ノ途ニ上ル筈ニ有之候処同氏ハ本國政界並ニ実業界ノ有力家ニシテ其觀察ノ当否及感想如何ハ将来我ガ伯國移民並ニ日伯貿易其他諸般ノ關係ニ影響スル所尠カラズト思考セラレ候ニ付右御含ミノ上同氏一行貴地方旅行ノ際ハ手荷物ノ簡易通関方ヲ初メ視察其他ニ関シテモ出来得ル丈ケ便宜供与方可然御取計相成候様致シ度此段及御依頼候 敬具

(附記)

サンパウロ州前農務長官北京横濱間旅行日程予定  
大正五年十一月十二日 北京發(汽車ニテ京城ニ直行ノ

筈)

十三日 京城着  
十四日 京城滞在  
十五日

伯國行呼寄移民ノ渡航許可ニ關スル件  
第二〇号

通送第二七号呼寄移民渡航ノ件御方針通りニテ差支ナシ

註 前掲三五〇文書

三五七 十月二十九日

在伯國畑公使ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛(電報)

日本政府ノ南米行移民ヘノ補助金支給説ニ付

問合ノ件

第三一号

日本政府ハ南米行移民一人ニ付八十円宛ノ補助金ヲ与フル旨公表シタル由当地諸新聞ニ掲載アリ真偽御返電請フ

註 右ニ対シ十月三十日外務大臣ヨリ左ノ通り返電アリタリ

「第一一号、貴電第三二号ノ件事実無根」

三五八 十一月二日

幣原外務次官ヨリ  
山県朝鮮總督府政務總監宛

伯國前州農務長官ニ便宜供与方依頼ノ件

附記 伯國前農務長官ノ北京横濱間旅行日程

通送第一〇四号

今般極東觀光並ニ諸事視察ノ目的ヲ以テ夫人令嬢及家庭教

十六日 朝京城發  
十七日 下之関着(宮島ニ向フ)  
十八日 宮島滞在  
十九日 宮島發(京都ニ向フ)  
二十日 京都  
二十一日 京都發  
二十二日 東京  
二十三日 東京  
二十四日 横浜  
二十五日 横浜ヨリ東洋汽船会社ノ「コレア」丸ニ搭乘桑港ニ向フ筈  
ア」丸ニ搭乘桑港ニ向フ筈

(注意)

十一月二十五日ニ横浜發ノ筈ナリシ「コレア」丸延期ニ付「バルロス」氏ハ他ノ汽船ニテ出發スルカ又ハ依然「コレア」丸ニ搭乘スルコトトシテ出發ヲ延期スベキヤ不明ナリ、從ツテ上記旅行日程モ變更セラルルヤモ図ラレズ

上記日程變更ノ場合ニハ上海ヨリ北支朝鮮本邦マデノ案内者中村吉之丞(同人ハ最近上海ニ向ヘリ)上海ヨ

リ野田通訳官宛ニ通知スベク打合せアリ、封筒ニ「バ  
ルロス」氏旅行日取ノ件ト記シアル筈（若シ又記載ナ  
クトモ）ニ付開封ノ上可然処分アリ度シ

三五九 十一月九日 在サンパウロ松村総領事ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛

日本移民ニ対スル新聞論說抄訳報告ノ件

通公信第七八号 (大正六年一月六日接受)

大正五年十一月九日

在サンパウロ

総領事 松村 貞雄 (印)

外務大臣伯爵 寺内正毅殿

当国新聞紙上日本政府ハ伯国行移民ニ対シテ八十円ノ補助  
ヲ給与スル旨ノ東京電報掲載サレ之ニ対シ「リオ」市「ア、  
ノイテ」新聞ハ日本移民ト題シ我ニ対シ余リ快ラヌ論難ヲ  
試ミ候右ハ当国官民ノ一部ニ於ケル日本移民ニ対スル意嚮  
ヲ知ルノ参考ト存候処本電報ニ関シテハ已ニ在伯畑公使ヨ  
リ新聞紙ニ取消ノ請求有之候由ニ付委曲同公使ヨリ報告済  
トハ被存候得共為念別紙抄訳差進候間御査閲相成度候尚本  
件ニ関シテハ当州重ナル新聞ハ何等ノ記事ヲ掲ケ不申候此

シメントスルモ能ハザル処ナリ。

吾人ハ上記東京電報ニ接スルヤ直ニ農務省ヲ訪ヒ植民局ノ  
一員「ジョアキン、ローシャ」氏ト会谈セリ。氏ハ目下独  
立百年祭ヲ期シテ発刊セラルベキ千八百二十年以來ノ伯刺  
西爾植民史ノ編纂ニ従事シツツアル人ナルガ同氏ハ曰ク  
予モ亦タ電報通信ニ依リ日本政府ノ告示ヲ知ルコトヲ得  
タリ、我輩ハ日本移民ニ対シテ門戸ヲ閉鎖シ得ルモノニ  
非ズ、然レトモ亜細亞移民ガ我ニ対シテ何等利益ヲ与ヘ  
ザルコトハ已ニ屢々切論セラレタル処ニシテ之カ為メ今  
日迄彼等植民ハ其數極メテ僅少ナル程度ニ在リタリキ、  
本問題ノ論議セララルニ至リシハ千八百六十五年以來ノ  
事ニシテ當時「ドクトル、ラセルダ、ウエルネツク」ハ  
彼等植民ノ不利ニ関シ各方面ニ涉リテ之ヲ指摘シ時ノ新  
聞紙ニ連載シタルコトアリ。此種ノ攻撃ハ独リ此歴史家  
ニ止ラズ、「オリヴェイラ、モンテイロ」ノ如キモ亦伯  
国及葡萄牙植民地ナル題目ノ下ニ反対意見ヲ発表セリ。  
「サルウァドル、メンドサ」ハ当局「シニンプ」ノ囑托  
ニ係ル亜細亞労働者ト題スル記録ニ於テ彼等ノ価値ニ関  
シ非難スル処アラサリシモ尚左ノ如キ論調ヲ以テ記載

段申進候 敬具

(別紙)

日本移民(抄訳)

東京電報ニ依レバ日本政府ハ南米殊ニ伯国行移民ノ凡テニ  
対シ補助金八十円(伯貨百九十三「ミルレース」)ヲ給与ス  
ルコトヲ告示セリ。

近キ将来即チ世界ノ平和克復後ニ於ケル宇内ノ形勢ハ今日  
ヨリ之ヲ逆賭スルコト頗ル困難ニシテ深ク吾人ノ留意ヲ要  
スルノ秋ニ当リ這般日本帝國政府ノ此行動ハ蓋シ非常ノ意  
義ヲ有スルモノト認メザルヲ得ズ。

北米合衆國ニ於ケル日本人ノ労働ニ関シテハ吾人ノ已ニ熟  
知スル如ク加州ニ於テ移民問題ヲ惹起シ旋テ同國全部ニ伝  
播スルニ至レリ。是レ吾人ガ常ニ亜細亞民族ノ移住ヲ排斥  
セル所以ナリ。從來極東ヨリ伯國ニ流入スル移民數ハ常ニ  
限縮サレタルハ一ニ之カ為メニシテ独リ「サンパウロ」州  
ニ於テノミ其施政上ノ救済策トシテ千九百十三年千九百十  
四年度ニ其移入ヲ見タルノミ、然ルニ日本ハ一方北米ニ向  
ツテ流出スル移民ノ潮流ヲ妨止シツツアル今日南米ニ向  
フ移民ヲ保護セントスルハ吾人ヲシテ何等疑念ヲ生セザラ

セリ。

「是レ我國發展上最良ノ器具タルヘキヲ想ハシムル種  
族ナリ。永住ノ条件ヲ附与セズ、定住ヲ許サズ、定期  
交代又ハ契約ノ定期更新等ノ方法ヲ以テ半世紀間之ヲ  
使用セバ現時ノ難境ヲ脱シ将来ノ繁榮ニ資スルヲ得ベ  
シ」云々

次ニ「ポール、レロー、ポリーリュウ」氏モ亦歐洲並ニ亞  
米利加ニ於ケル亜細亞移民ヲ非難セルコトアリ  
今試ニ伯國ニ於ケル最近日本移民ノ統計ヲ述フレバ

| 年度   | 各国移民    | 日本移民  |
|------|---------|-------|
| 一九〇八 | 九四、六九五  | 三八〇   |
| 一九〇九 | 八五、四一〇  | 三一    |
| 一九一〇 | 八八、五六四  | 九四八   |
| 一九一一 | 一三五、九六七 | 二八    |
| 一九一二 | 一八〇、一八二 | 二、九〇九 |
| 一九一三 | 一九二、六八三 | 七、一二二 |
| 一九一四 | 八二、五七二  | 三、六七五 |
| 一九一五 | 三二、二〇六  | 六五    |

ニシテ日本移民ノ流入ハ単ニ「サンパウロ」州ガ之ヲ誘

入シタル千九百一十二年及十四年度ニ於テ其増加ヲ見タルノミ。

日本移民ノ伯國ニ於ケル一般移民ニ比較シテノ千九百八年ヨリ千九百十五年ニ至ル百分率ヲ列挙セバ左ノ如シ

〇、四〇。〇、〇四。一、〇七。〇、〇二。一、〇六。三、六九。四、四五。〇、二〇。

上記以前ニ於ケル日本移民ハ千八百九十年「サントス」港ニ上陸シタル三十八人アルノミ。今日ニ於ケル日本人ハ開化セル勤勉者ナルヲ以テ能ク或事ヲカ為スニ足ルベク從テ東京政府ノ計畫ハ或ハ相互の利益ヲ齎ラスコトアルベキヲ信ズルヲ以テ彼等ニシテ自由渡航者トシテ渡來シ且ツ我殖民事態ニ害ヲ及ボサザル限ハ日本政府ノ計畫ニ對シ何等反對スルヲ得ス又反對スヘキニアラザル也。

三六〇 十一月二十四日

在サンパウロ松村總領事ヨリ  
本野外務大臣宛

氏名詐称渡伯ノ移民ニ関シ報告ノ件

通公号八二号

(大正五年二月二日接受)

大正五年十一月二十四日

在サンパウロ

三六一 十一月二十五日

在サンパウロ松村總領事ヨリ  
本野外務大臣宛

伯國行移民渡航ノ際携帶荷物ニ付注意方ノ件

通公信第八四号

(大正六年二月二日接受)

大正五年十一月廿五日

在サンパウロ

總領事 松村 貞雄 (印)

外務大臣子爵 本野一郎殿  
從來当國へ移民渡航ノ際本邦ニ於ケル移民渡航周旋者中ノ或者ハ移民ニ向ツテ移民携帶品ノ無賃輸送及無税通関ヲ奇貨トシ或種ノ商品ヲ伯國ニ携帶シ行ケバ頗ル利益アルベシナド吹聴スル由ニテ移民中之ニ誘惑セラレテ日用品以外ノ商品ヲ携帶シ渡來スル者モ有之候処当國ニ於テハ商品ノ販賣ハ凡テ正式ノ鑑札ヲ有スルモノニ非レバ之ヲ為スコトヲ得ズ之ヲ犯カスモノハ輕ラザル罰金ヲ課セラレ候事ト相成居候ニ付是迄僥倖ニシテ或種ノ商品ヲ密輸入シ得タルモノモ上陸後ニ於テ販売ノ方法ヲ得ズ已ムコトヲ得ズ捨売同様ニ致シタル実例ヲ聞及居候從來本邦移民ハ歐洲移民ニ比シテ携帶手荷物ノ数量多キニ過グル様一般ニ認メラレ居候上

總領事 松村 貞雄 (印)  
外務大臣子爵 本野一郎殿

本籍 福島県信夫郡松川村字竹ノ内四十二番地

戸主 清助長男

家長 加藤 清作  
明治二十四年九月十日生

妻 カツ

二十六年六月三十日生

養子 民藏

三十四年三月十日生

右者大正三年四月東洋移民会社取扱第四回移民トシテ渡來シタル家族ニ有之候処其実養子民藏ハ渡來セズ家長清作ノ実弟竜藏(三十年生)ナル者民藏ノ名ヲ騙リテ渡來シタルモノニテ今回竜藏ノ徴兵猶予出願ノ必要上不得已右事實ヲ自白シタル次第ニ有之候此種ノ不都合既ニ再三告發致置候通り福島県移民ニ最モ甚敷候ニ付テハ本關係人ニ對シ相當制裁可有之ハ勿論当該官憲併ニ移民取扱人ヘモ篤御警告相成候様致度事實具申旁右申進候 敬具

ニ移民中往々右ノ如ク日用品以外ノ商品ヲ携帶シ來リテ没収又ハ罰金等ニ処セラレタルモノモ有之既ニ官憲ノ注意ヲ惹起シ居候事ナレバ今後更ニ本邦移民到着ノ場合ニハ從前通り寛大ニ參ルマジク日用品以外ノ商品ハ必ズ課税致ス事ニ可相成思考致サレ候ニ付移民ノ商品携帶ハ独リ彼等ニ取ツテ何等利益ヲモ生セザルノミナラズ我移民入國上特別ノ面倒ヲ惹起スベキハ勿論結局本邦移民全体ノ声価ニモ悪影響ヲ及ボスベク被存候就テハ來年度ニ於テ本邦移民ガ愈々当國へ渡航スル運ニ相成候ハバ移民ニハ日常必要品以外、一切携帶セシメザルコトニ致度候ニ付右ノ事情周ネク移民一般ニ知レ渡ル様可然御取計相成度此段申進候 敬具

三六二 十一月二十七日

在伯國細公使ヨリ  
本野外務大臣宛

對伯啓發運動ニ関シ稟申ノ件

通機密第一九号

(大正六年二月二日接受)

大正五年十一月二十七日

在伯

特命全權公使 畑 良太郎 (印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

対伯啓発運動ニ関シ稟申ノ件

客月末紐約經由東京電報トシテ日本政府ハ南米行日本移民一人ニ対シ八十円宛ノ補助金ヲ支給スルコトニ決シタル旨当地諸新聞ニ掲載有之不取敢右ノ真否往電第三一号ヲ以テ伺出候処拾月三十日附貴電第一一号ヲ以テ御回報ノ次第有之直チニ右報道ハ事実ニ相違セル旨同文ヲ以テ当館ヨリ「リオ」市ノ主ナル諸新聞ニ掲載方取計置キタルカ其後当地諸新聞雜誌ニ於テ我移民ノ渡来ニ関シ可否ノ論ヲ為スモノ勃々出現シ或ハ露骨ニ民衆ノ感情ニ訴ヘテ我移民ノ来航ヲ禍視スルモノモアリ旁々排日論ノ胚種トモ見ル可キ徴候カ近時漸ク当国言論界ヲ着色シツツアルハ事実ニシテ来年度以降本邦移民ノ入国増加ト共ニ益々此種議論ノ流行ヲ見ルニ至ル可ク之ヲ今日ノ儘ニ放任スルニ於テハ近キ将来ニ於テ事端取捨ス可ラサルニ至ル無キ哉ヲ憂慮致候而シテ対伯啓発運動ノ必要ニ関シテハ予メ御来訓ノ次第モアリ從來本使ニ於テモ充分留意罷在候へ共何分今日ノ如ク単ニ館務ノ一部トシテ徒手空拳之ヲ行ハントスルモ到底其目的ヲ達シ得サルノミナラス将来当国ニ於ケル我移植民ノ発展ト共ニ此種運動ノ必要ハ益々切実ノ度ヲ加フルニ至ル可キニ付此

言ヲ俟タサル所ニシテ現ニ今回排日之謬想ノ新聞紙ニ伝ヘラレタル動機ハ前述ノ如ク彼ノ「日本政府ハ南米行移民ニ対シ八十円支給ス」トノ紐育電報ノ伝播ニ有之旁々当国ニ於ケル組織的啓発運動ノ実行ト相俟ツテ対米啓発事業綱領ノ中ニモ本邦対南米ノ関係ニ付キ北米人ノ無用ナル嫉視謬見ヲ教化スルノ一項ヲモ加フルノ必要可有之ト思考被致候此段及稟申候 敬具

追テ新聞記事切抜並ニ抄訳同封致候也

註 新聞記事切抜ハ省略シ抄訳ノミ別紙トシテ左ニ採録ス

(別紙)

A Notice 拾一月二日

日本ハ移民ノ流ヲ南米ニ転向セントス 東京電報ニヨレハ日本政府ハ南米殊ニ伯刺西爾行移民ニ対シ補助金トシテ八十円(約百九十三ミルレース)ヲ給スル旨発表セルカ日本政府ノ此処置ハ吾人ノ注意ヲ要スル所ナリ、從來吾人ハ常ニ亜細亜移民ノ来伯ニ反対シ来レル為メ「サンパウロ」州ヲ除ク外伯国ニ於ケル極東移民ハ著シキ発達ヲ見サリキ而シテ今日日本カ北米行移民ヲ禁シ乍ラ南米移民ヲ保護スルハ吾人ノ不審ナキ能ハサル所ナリ右ニ関

際対米啓発運動ノ例ニヨリ対伯啓発事業ニ関シテモ特別資金ノ支給ヲ得独立ノ機関ヲシテ之レカ実行ノ任ニ当ラシムルヲ最上策ト思考致候へ共経費ノ御都合上俄カニ其運ヒニハ難到ト被存候ニ付不取敢臨機ノ処置トシテ経費ハ年額二拾「コントス」(約一万元)ノ支出ヲ仰キ当国ニ於テ相当ノ地位経歴ヲ有スル有能ノ伯国人一兩名ヲシテ「リオ」及「サンパウロ」ニ於ケル諸新聞ノ対日論調ヲ緩和若シクハ誘導スルト共ニ有力ナル一二ノ新聞ト特別ノ聯鎖ヲ保チテ徐ロニ我「プロパガンダ」ヲ為サシムルコト最モ効果多カ

ル可ク右伯国人ノ人選新聞ノ選択等ニ関シテハ当方ニ於テ相当心当リモ有之候へ共省議御決定ノ上ナラテハ何分ノ交渉開始致難叙上ノ事情篤ト御看取ノ上此際速カニ当国ニ教化運動ノ実行ヲ見ルニ至ル様特ニ御詮議相成度候 将又過日桑港発行ノ雜誌 *Sunset* 拾月号中「日本ノ野心ト拉丁亜米利加」ト題スル南米ニ於ケル邦人ノ発展ヲ述ヘタル警告文ノ掲載アリタルカ近時一種ノ排日論カ当国新聞雜誌ニヨリテ伝播サレツツアルノ際北米ニ於ケル右等中傷論ノ流行ハ自然当国言論界ニ教唆ノ作用ヲ呈シ当国人士ヲシテ我ニ対シ深刻ナル警戒ノ必要ヲ感スルニ至ラシム可キハ

シ伯国農商務省ニ於テ目下独立百年祭ノ際発行セラル可キ一八二〇年以後ノ伯国植民史編纂ノ任ニ当レル統計局一課長「ジョアキン、ロツシヤ」氏ノ談ル処左ノ如シ

吾人ハ日本移民ニ対シ門戸ヲ閉鎖シ得サルモ亜細亜移民ノ吾人ニ適セサルコトニ関シテハ一八六五年以来 *Lacerda, Werneck* ノ論文及 *Oliveira Monteiro* ノ伯国移民論ニ於テ充分ニ論究セラレタル所ニシテ *Sahodor de Mendonça* カ參議 *Shinbre* ノ命ニヨリ亜細亜労働者ニ対スル覚書ヲ作りタル際亜細亜移民ハ之ヲ我國ニ定着セシメス定期ニ人員ヲ交替セシメテ半世紀間之ヲ我隆盛ヲ計ル器具トシテ使役スルニ於テハ我現下ノ困難ヲ救済シ将来ノ発展ニ資スルコトアル可シト論シタルコトアリ *Paulo Leroy Beaulien* ハ欧米ニ於ケル亜細亜植民ノ排斥論ヲナシタリ 近時来伯ノ日本移民数左ノ如シ

| 年    | 諸国移民入国数 | 日本移民ノ全入国<br>民数 | 日本移民ニ対スル百分率 |
|------|---------|----------------|-------------|
| 一九〇八 | 九四、六九五  | 三八〇            | 〇、四〇        |
| 一九〇九 | 八五、四一〇  | 三一             | 〇、〇四        |

一九一〇 八八、五六四 九四八 一、〇七  
 一九一一 一三五、九六七 二八 〇、〇二  
 一九一二 一八〇、一八二 二、九〇九 一、〇六  
 一九一三 一九二、六八三 七、一一二 三、六九  
 一九一四 八二、五七二 三、六七五 四、四五  
 一九一五 三二、二〇六 六五 〇、二〇

今日ノ日本人ハ文明ニシテ勤勉ナレハ何等カ為スニ足ル可ク日本政府ノ目論見ハ多分相互ヲ利スルニ至ル可シ而シテ吾方ニ経費ヲ要セサル自由移民ノ来航ニ就キ吾人ハ敢テ之ヲ排斥ス可キニ無ク又排斥ス可ラズ

三六三 十二月二十五日 在サンパウロ松村総領事ヨリ  
 本野外務大臣宛

伯国前州農務長官ノ日本及中国通信抄訳報告

ノ件

附屬書一 右日本通信

二 中国通信

通信第九五号 (大正六年二月二十六日接受)

大正五年十二月二十五日

在サンパウロ

東京ニ歸ルヤ「サンパウロ」ニ事業ヲ経営セル日本人ノ委員ヨリ歓迎ヲ受ケ、散歩、見物、宴会、及茶ノ湯ノ催等相踵ゲリ、又タ内閣総理大臣大隈侯爵ト接見ノ打合モ整ヒ居タリキ、侯ハ日本近代ノ最モ卓越セル人物ニシテ当年七八歳、嘗ツテ反対党员爆裂彈ノ為ニ片脚ヲ無クシ、眼光活氣アリテ且ツ鋭ク、広額ニシテ人種ノ好標タル頬骨秀ツ、口大ニシテ慈愛ノ微笑ヲ帯ビ、高尚且ツ堅実ノ風アリ、此非凡ノ人物ハ今猶智力旺盛、体力壯健ナルヲ示セリ、伯国ニ数年間滞在セシ一通訳ニ仍リ予メ快活ニ談話ヲ試ミラレタルコト五十分間、予ヲシテ其以前ニ退座セシムルノ機会ヲ与ヘラレザリキ、接見ハ此ノ如ク真率懇切、其接見ノ永キニ及ヒタルハ予ノ大ニ幸福ニ感ズル処ナリ

談話ノ題目ハ自ラ日伯關係殊ニ「サンパウロ」トノ關係ニシテ兩者ヲ結合スル相互ノ利益、「バナマ」運河開通ニ仍ル接近、土地狹隘、人口稠密ナル結果日本人移住ノ必要、労働者ノ資格トシテ性質善良、強健且ツ抵抗力アルコト等ナリ、伯国ニ就テハ僅ニ知レリト白状サレシモ政治、地理及經濟状態ニ対スル一般智識ノ独特ノモノアルヲ窺ハシ

総領事 松村貞雄(印)  
 外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

当州前農務長官「モラエス、バルロス」氏カ東洋漫遊中日本並ニ支那ヨリ当地友人ニ寄セタル書柬ニ通当市新聞「オ、エスタード、デ、サンパウロ」ニ掲載致サレ候処日本通信ニ仍レバ我国官民ヨリ受ケタル歓迎ト我國現下ノ進歩状態ハ頗ル同氏ニ良好ナル印象ヲ与エタルモノト認メラレ、更ニ支那通信ニ於テ日支兩國ヲ比較シ同氏ノ我國ニ対スル感想如何ヲト知スルニ足ルモノアリト思考致候ニ付二通トモ抄訳報告申進候間御査閱相成度候 敬具

(附屬書一)

(抄訳)

日本通信 九月廿七日宮ノ下発

首府ヨリ日光ニ来テ二日ヲ過ゴセリ、日光ハ山間ノ一仙境ニシテ森林、瀑布、橋梁、河湖、帝宮、神社仏閣等ノ美一々枚拳ニ遑アラズ、一個ノ街道アリ、蒼鬱タル杉樹之ヲ挾ム、樹ハ四世紀ノ年數ヲ経過セルモノニシテ街道ノ延長二十六基米突、当地独特ノ美觀タリ、而シテ此等杉林ハ地上或点ヨリ互ニ相接着シテ真個ノ牆壁ヲ作シ亭々高キニ達

ム、コレラハ歐洲幾多ノ著書ニ負ウ処多ク「クレマンソト」ノ著述モ其中ニアリトノ言ナリキ、予ハ本会見ニ魅セラレテ引上ゲシガ老侯ハ鄭重ニモ街路ニ沿フ入口迄予ヲ見送ラレタリ、

其日予ハ外務大臣石井子爵ノ官邸ニ於テ催サレシ晚餐会ニ列席セリ、子爵ハ少シ以前迄巴里駐劄大使タリシ人ナリ。食事ハ歐洲風ニシテ食卓ハ伯國蘭花ヲ以テ見事ニ裝飾シアリ、列席者ハ伯國公使「シエルモント」氏ノ外石井子爵夫人、外務次官、仏語カ又ハ英語ヲ話セル貴婦人六名、及公使館在勤ノ為ニ伯国ニ在リシ少數ノ紳士ナリキ此ノ如キ好意ノ下ニ日本上流社会ヲ知ルノ機会ヲ得タルハ一同非常ニ満足ニ堪ヘザル処ナリ、諸君モ察スルナランガ本宴会ナルモノハ特ニ予等ノ為ニ催サレシモノナリトス。大臣ハ単ニ此一場ノ親睦ニ止ラズ、部下ノ一人ヲシテ葡萄牙語ヲ能ク操ルモノヲ我一行ガ「フェリッピン」ニ向ケ神戸ヲ出帆スル迄同行セシムルコトトシ予等ノ最モ趣味ヲ有スル公私ノ施設ヲ視察スルニ便宜ヲ与フルコトトセラレタリ、予等ヲ歓迎セラレシ委員ヲ初メ大臣等カ予等ノ旅行力確然タル私人ノ資格ナルコトヲ承知シ居ラレ勿ラ此ノ如キ待遇ヲ与ヘ

ラレシニ対シ予ハ如何ニシテ深厚ナル感謝ノ意ヲ致スベキヤヲ知ラザル也、

予ハ朝鮮ヨリノ帰途再ヒ日本ヲ通過シ東京ニ帰ルコトトスベシ蓋シ先方ノ懇望ニ背キ難キ為ナリ有体ニ言ヘバ予ハ日本人ノ為捕虜トナリタル也

饗宴ニ疲レ果テテ昨日予等ハ出帆港方面ニ向フベク東京ヲ出発セリ、途中宮下、名古屋、山田、奈良及京都等最モ珍奇ナル地方ヲ經由シ十月十一日出帆港到着ノ予定ナリ、本通路ニ於テ絹、縫箔、磁器、漆器類、七宝、竹細工、銅器、象牙、木材細工等最重要ナル工場ヲ見物セント欲ス当國ニ於テ完全ノ位置ニ発達セル特殊ノ學術ヲ一々実見スルコトハ到底難シトスル処ナリ。其概念思想ハ必スシモ独創的ノモノタル能ハザルベシ、然レトモ其実行力ハ恐ルベク其結果実ニ驚クベキモノアル也。日本人ハ実ニ繊巧高雅ニシテ且ツ精巧ナル色采ノ配合ニ長ズル美術家ナリ。又タ茶ノ耕地及造船所ヲモ一見セント欲ス。

既ニ経過シ来レル通路ニ於テ土地ノ豊饒、耕作物ノ進歩状態ハ之ヲ賞覽スルコトヲ得タリ、農業機械ヲ使用セザルモ労働者ノ多数ナルト労働ノ低廉ナルコトハ人口稠密ノ度ニ

外ニ属ス、一般使用ノモノハ之ヲ人力車ト称シ結構美麗、小幌ヲ有シ便利且ツ廉価ナリ。

鉄道ハ国内ヲ縦横ニ切斷シ運轉回数頗ル多ク且ツ精確ナリ、尤モ其進行ハ多少遲鈍ナリトス。

此等人衆ノ秩序、平和、其他ノ接客方法等ハ予輩ノ頗ル不思議ニ感ズル処ナリ、予ノ終日相見ル間ニ於テ未ダ一人ノ酩酊者喧嘩者争鬪者ヲ見タルコトアラズ、其商人タリト否トヲ問ハズ予輩ノ旅行中ニ立寄りタル家ニテハ主婦又ハ家女ハ先ツ勸ムルニ腰掛及座蒲団ヲ以テシ、砂糖ヲ入レザル茶及茶菓子ヲ饗スルヲ常トス。心附ハ静肅ニ之ヲ受取り或期間之ヲ保存シ決シテ要求ガマシキ様子ヲ示サズ、一般ニ氣韻高クシテ野卑ナラズ、未タ乞食ヲ見ズ、手ヲ出シテ物ヲ乞フモノアラザル也。

都府、村落、市街、市場鉄道等到处清潔ニシテ掃除微細ニ亘リ、此間一片ノ紙屑、木葉ヲ見ス、都会ニハ昼夜水ヲ播キ北米合衆國ニ勝レルモノアリ、道路ハ一般ニ「マクアダム」式ヲ用ユ、我國「アスファルト」使用ノ街路ノ如ク保存ニ堪ユ、塵埃ノ起ラザル点ヨリイヘバ寧ロ我ニ勝ルモノアル也。

比シテ耕地面積ノ狹隘ナル當國ニ便宜ヲ与ヘリ。耕作ハ國ノ隅々迄行キ渡リ其方法最モ集約的ニシテ土地ニハ肥料ヲ施ス、其用意周到ナル実ニ他國ニ例ヲ見ズ

既ニ成熟セル稻田其他ノ穀作地ヲ見タリ、谿間丘腹ニハ野菜果樹ノ畑アリ、而シテ此内、花卉、杉並木、楓樹松林アリテ其単調ノ景ニ変化ヲ与フ。丘上ニハ杉林其他用材林アリ其間無用ノ空地ヲ見ズ、人ヲシテ注意ノ行キ届キタル庭園、果園、菜園及花園ヲ見ルガ如キ感アラシム、而シテ山ハ其鬱蒼タル植物ニ仍リ自然ノ公園ヲナス、此ノ如キ耕作方法ニ仍リ初メテ人口稠密ノ集團ニ食物ヲ供給スルコトヲ得ベシ、此等人々ハ各方面ニ撒布シ恰モ蟻ノ餌ヲ求ムルニ髣髴タルモノアリ、

人衆稠密ヲ以テ注意ヲ惹クモノハ独リ都会ニ止ラズ、汽車内又タ非常ノ群衆ヲ認ム、予輩ノ通過セシ地方ハ村落相接シ其間殆ソト間斷ナシトイフコトヲ得ベシ。此ノ如ク人口過多ナルヲ以テ人間ノ勞力ヲ以テ農業機械ニ代用スルノミナラズ又タ牛馬ニ代用シテ牽引ノ業ヲナス。

都府ハ勿論村落、地方到处人間ノ送迎ヨリ貨物商品ノ運搬ニ至ル迄輕輪車ヲ使用ス、自動車、馬車、大荷車ハ寧ロ例

水ハ日本人家族ニ取り欠ク可ラザル要素ニシテ到处其供給潤沢也、其日本人ガ有名ナル清潔家ナルニ対照シ大小ノ都會猶未ダ正確ナル排水組織ヲ有セズ、其結果トシテ到处殊ニ河水ト下水ノ相接スル処ニ於テ悪臭紛々吾人ノ嗅感ヲ襲フモノアリトノ非難アリ

日本人ノ家屋ハ殆ソド非難ノ余地ヲ存セズ、別ニ家具ト称スベキモノナシ、畳ヲ布キタル迄ニシテ即床其儘ニシテ入口ニ靴ヲ脱スルニ非レバ之ニ入ルコトヲ得ズ、室内一点ノ汚点、一片ノ塵埃及一片ノ危険ヲモ発見スルコトヲ得ザルヨリ推シテ其理明白ナルベシ。

猶此國ノ特色トシテ趣味アル点ハ家屋ガ外部ノ加害暴力ニ対シ特別ノ装置ヲ有セザルコト也、其私人ノ邸宅タリト商家タリトヲ問ハズ其大部ハ開放サレ居レリ其閉サレ居ル場合モ同様障壁ハ鏤ナキ襖ニシテ内外共ニ障子ヲ用ユ、外壁ハ移動シ得ル木製ノ雨戸ヨリ成リ単ニ風雨ヲ防ク為メニ用ユ、

然レトモ世ニハ例外ナキ万全ノ善事ナキ如ク生活ノ此ノ如ク單純ナルコトハ天国ニ入ルノ門戸ト想像サルルモ労働階級ニ属スル男女ハ殆ソト省略簡單ノ衣服即チ或場合ニハ單

純ノ布衣ヲ纏フタル儘公衆面前ニ出ツルコトアリ、此衣則チ「キモノ」ハ一般日本人ノ固有服装タリ。由来日本人ハ非常ニ丁寧親切ニシテ彼單綴音ノ国語ヲ半打以上学ブニ非レバ我々感謝ノ意ヲ最モ能ク表示セントスルニ際シ遺憾感ヲザルベシ。

東京ヲ出テシトキハ摂氏ノ三十度ナリシガ此地ハ十五度ニ過ギズ、予等ハ目下山岳重畳ノ間ニ在リテ時ナラヌ降雨ニ閉籠メラレツツアルヲ以テ此間ニ散策ヲ試ミ此山色明媚ノ全景ヲ賞玩スルコトヲ得ザルモ其代ニ茲ニ無味乾燥ノ散文ヲ綴リ此驚クベキ国土ニ於テ予輩ノ得タル感想ヲ諸君ニ告ルコトヲ得ル次第トハナレリ。

(附屬書二)

(抄訳)

支那通信 十月三十一日香港発

一昨日当地ヲ距ル三時間程ノ澳門ニ遊ベリ。市街半頹敗零落、港湾ハ美麗ニシテ小舟凝集、周囲ノ佳景画ノ如シ、且ツ洞窟ヲ有スル庭園アリ、「カモエス」ノ「ルシアダス」ヲ書キシ処ニシテ殆ント滑稽ニ類スル詩人ノ半身像ヲ装置ス、

葡萄牙行政ハ専ラ賭博場、阿片喫煙場ノ課税高ヲ以テ維持ス、首府ヲ亜細亜ノ「モンテカルロ」ト称ス、此一事ヲ除ケバ他ノ到処ノ支那市街ト何等ノ差異ヲ見ズ、

澳門ヨリ直接ニ広東ニ趣ケリ、広東ハ支那共和国ノ現時重要ナル商業地ノ一タリ。予輩ハ從來此ノ如ク人衆蟻集、往來頻繁互ニ雜踏セルヲ見タルコトアラズ、住民ハ市街住居者ト水上生活者アリ。最モ内輪ニ見積ルモ百万ヲ算スベク、内十二万ハ港内ヨリ「シェーキャング」河ニ懸ケ「ジャンク」船、「サンパン」船上ニ生活スル者ニシテ市街ノ各方面縦横ニ相向ヒ叫喚喧擾、人ヲシテ神經ヲ艱シム。

家屋ハ日本ニ於テ見シ処ト相反シ一般ニ三階又ハ四階ノ煉瓦建築ナリトス。然レトモ街路ハ狹隘ニシテ通路稀ニニ米突ニ達スルニ過ギズ、此等巢窟ニハ空氣光線ノ流通悪シク排水ノ便ナク其衛生状態ハ実ニ想像ニ余アリ、茲ニ男女長幼相雜居シ家内の職業的要求ト相待ツテ益々乱雜ヲ極メ、生存維持ノ必要上男女両性ノ差別カ攪乱サレ、婦人ヲ驅ツテ乱暴ナル労働ヲ敢テセシムルニ至ル、支那婦人ハ男子ト同シク重荷ヲ負フ動物ト謂フベク両性間ノ差別ヲ蔑視シ彼等婦人ハ僅ニ其女性固有ノ痕跡ヲ有スルノミニシテ彼等ハ

男子ノ「ズボン」ヲ纏フテ歩行ス、而シテ此等ノ不潔ナル家屋ヨリ発散スル悪臭ハ又タ一種特別ノモノニシテ他ニ其

比ヲ見ズ唯ダ之ヲ支那臭ト命名スルヲ得ン、人民ハ其生活ノ悲惨ナルト阿片喫煙ノ結果一種ノ形体性質ヲ有スルニ至ル、彼等ハ飲酒酩酊ニ仍リテ營養ノ不良不足ヲ寛和セントシ、其饑飢ヲ満タサンガ為ニ労働死ニ至ル、而シテ此ノ如キ休息ナキ奮闘ハ又タ彼等ノ醜惡ナル本能及情慾ヲ自ラ抑制シ之ヲ以テ単ニ彼等ノ乱雜ナル雜居生活ハ全然不道德ノ傾向ノミニ非ルヲ見ルベシ。彼等ハ体力衰頹、寧ロ現実ノ生活ヲナストイハンヨリ其不思議ナル迷信ノ下ニ生息スルモノトイフベク彼等ハ実ニ不合理ヲ極ムル人種ナリトス。彼等ハ日本人ノ如キ美術家ニ非ズ、然レトモ手細工ニ至テハ綿密織巧驚クベキ技能ヲ有ス。

此日支那国間ノ工場ニ於ケル差異ハ驚クベキモノアリ、彼ニ在テハ万事秩序、清潔及ヒ方法相伴ヒ各個人ノ意見ガ永久ニ貢獻スルニ在リ、此ニ在リテハ万事不秩序、不潔ニシテ方法ナク唯タ生活上已ヲ得ザルニ出ツル耐力力行ニ仍リ僅ニ視聽ヲ惹クニ足ルモノアリ、絹、漆器及象牙ノ細工場ニ於テ其詳細ヲ觀察スルコトヲ得タリキ、予輩ハ以上ニ列

記セル特質長処ヲ有スル商店ヲ見物セシガ雜箔業最モ発達セルヲ認ム、

広東ニ於テ最モ珍奇ナルコトハ人民ノ水上生活ノ一事ナリ港内ニ采集セル小舟ハ其數幾百千ニ上リ殆ンド記ス可ラズ其大部ハ各自相繋キ、各方面ニ相動キ此間ニ寄航セントスル多數汽船ノ運轉ヲ困難ナラシム、実ニ一見ノ価値アリ、予輩ハ香港ヘノ帰航ニ際シ之ヲ見ルコトヲ得タリ、

当地ヨリ澳門及広東ニ至ル往復旅行間ハ風光絶美ナリ、汽船ハ海滨附近ニ沿フテ進行シ、幾多ノ島嶼ヤ、水色清冽ヲ極ムル河床ヲ見ン、半夜香港ニ入港セシカ二個ノ強力ナル全光反射器ヨリ海滨、市街、山岳、島嶼、海面、丘上ヲ照ラシ実ニ一個ノ壯觀タリ、予輩ハ明後日ニ「マニラ」ヨリ便乗シ来レル「エムプレス、オフ、ラスレヤ」へ乗上再ヒ旅行ヲ継ケ五日上海到着ノ予定ナリ。同地ニハ日本人ノ嚮導者ガ予輩ヲ待受ケ支那、滿洲及ヒ朝鮮ニ案内スルコトトナリ居レリ。

北京ニハ一週間位滞在ノ筈ナルガ同地迄ハ僅ニ端書通信ヲナスニ過キザルベシ、蓋シ上海、南京及天津等見物ノ場処頗ル多クシテ自由ノ間時間甚タ少ケレバ也。

三六四 十二月二十五日 在サンパウロ松村総領事ヨリ  
本野外務大臣宛

黄禍問題ニ関スル新聞記事抄訳報告ノ件

公第九九号 (大正六年二月二十六日接受)

大正五年十二月廿五日

在サンパウロ

総領事 松村 貞雄 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

去月廿六日「リオ」発刊「オ、イムバルシャル」紙上黄禍問題ニ関スル記事有之候処右記事ノ主タル談話者「ロードリーゲス、アルヴェス」氏ハ当州前統領ニシテ次期大統領ノ最モ有力ナル候補者トシテ推サレツ、アル老「ロードリーゲス、アルヴェス」氏ノ子息ニシテ目下当州撰出ノ聯邦下院議員タリ随テ氏ノ意見ハ頗ル傾聴ニ価スルモノニシテ又「シンシナト、ブラガ」氏ハ昨年当州ノ政変迄聯邦議會ニ於ケル「パウリスタ」党ノ院内総理タリ同氏ノ属スル「デンデンシャ」派ハ当州前財務長官及農務長官ヲ初メ少数ナガラ有為ノ人物揃ヒ居レバ同氏ノ言モ亦大ニ注意スベク「ガレアン、カルヴァリヤル」氏モ亦当州撰出議員

リ

代議士「ロードリーゲス、アルヴェス」氏ハ右ノ事実ヲ論評シテ新聞ノ論説ニ論及シ黄禍ノ恐怖スヘキ点ニ関シ首肯スル所アリ氏ハ其議論ヲ証明スル為メ左ノ如キ事例ヲ挙げテ黄色移民ノ心理的説明ヲ試ミタリ

(第一例) 「サンパウロ」州都ニ高位置ヲ有スル一紳士

ハ其住邸ニ一日本人給仕ヲ一週間程使用シ居タリシガ都合アリテ之ヲ解雇シ更ラニ他ノ日本人ヲ雇入レタリ然ルニ此者ハ第一回ノ給仕ニ於テ既ニ食卓ニ於ケル各人ノ座席、習慣、嗜好等ヲ一々熟知シ居リテ家人ヲシテ呆然タラシメタリ因テ如何ニシテ斯ク神変不可思議ナルコトヲ為シ得ルヤヲ質シタルニ事ハ極メテ簡單ナリシ彼ハ衣袋ヨリ其参考書トモ云フヘキ備忘録ヲ取出シテ之ヲ示セリ是レ先ニ解雇セラレタル同胞ヨリ譲渡サレタルモノナルガ此記録ニハ家中ノ人物ノ人相、風采、座席、習慣等ヨリ卓上ノ植木ノコト迄及ヒテ詳細ニ書留メアリ是レ実ニ驚異ナル事実ナラズヤ此談話ヲ熱心ニ傾聴シ居タル「シンシナト、ブラガ」氏ハ曰ク否、コハ単ニ稀有ノ事実ナルノミ予若シ同様ノ場合ニ際会セバ其ノ抱負ト希望トヲ質シ之ニ資金ヲ給シテ共同事

ナリ右ノ如ク本問題ノ談話ガ我移民ノ居住地タル「サンパウロ」州撰出有力議員間ニ行ハレタル事実ニ鑑ミ此等政客ノ日本移民ニ対スル意嚮ヲ知ルニ便ナリト思考致候ニ付多少時日ノ遷延セルニ拘ラズ別紙抄訳ノ上報告申進候間御査閱相成度候唯タ甚タ滑稽ニ感セララルハ土人ノ混血アルモノノ如ク浅銅色人ノ容貌ヲ有スル「ロードリーゲス、アルヴェス」一家ノ人士ヨリ黄禍論ヲ聴ク次第ニ有之候  
右申進候 敬具

(別紙)

黄禍問題ニ関スル新聞記事抄訳

黄禍問題ニ関シ最近我同業者其我國ニ及ホス危険ヲ列挙シテ之ヲ論難スル所アリシガ今吾人ハ我議院ノ廊下ニ於テ本問題ニ関シ「サンパウロ」撰出議員間ニ行ハレタル趣味アル談話ニ接スルヲ得タリ世人ノ知悉セル如ク「サンパウロ」州ハ「ロードリーゲス、アルヴェス」統領當時ノ行政長官「アルチノ、アラシテス」ノ仲介ニ由リ日本移民參千名誘入ノ契約成立セシガ今回又同州農務長官「カンチド、モッタ」ハ日出国ヨリ五千名以上ノ誘入契約ヲナシ該移民ハ来年三月「サントス」港ニ到着スヘキコトトナリ居レ

業ヲ営ムベシ

「ロードリーゲス、アルヴェス」氏ハ之ニ答ヘテ曰クソハ「エリス」(聖州撰出上院議員)ノ為セル所ナリ彼ハ耕地ヲ擴張シ米作ヲ經營シタル際日本人ト契約セリ然レトモ今ヤ彼ハ彼等ヲ解雇セント欲シ指ヲ屈シテ契約期限ノ終了ヲ俟テルコトヲ茲ニ明言シ得

(其他ノ一例)

或耕主ハ其耕地ニ伊太利移民ヲ使用シ居タルガ更ニ新タニ日本移民若干家族ヲ雇入レタリ労働第一日ヲ終リ監督ト共ニ当日ノ計算ヲナシタルニ日本人ハ從來斯業ニ慣レザル為メ伊國人ニ比シテ咖実採集ノ成績少量ナルコトヲ示シタリ其際日本人等ハ何事ヲモ言ハザリシガ翌日トナルヤ彼等男女ハ悉ク未明ヨリ咖啡園ニ入りテ採集ニ取懸レリ蓋シ此手段ニヨリテ伊國人ニ打勝タントシタルナリ更ラニ他ノ一耕地ニ同シク伊太利人日本人ノ両者ヲ使用スル所アリシガ一日伊國人ヨリ賃銀ノ前借ヲ申出テシニ対シ耕主ハ之レニ伊太利人ハ毎ニ金ノ必要ニ迫ラル日本人ハ從來未タ曾テ賃銀ノ前借ヲ申出テタルコトナシト云ヒシニ伊太利人ハ答ヘテ曰ク「自分等ハ妻子ヲ有シ彼等ニ被服ヲ与ヘザルベカラズ自分等ハ日本人ガ如何ニシテ都合ヲ付ケ

行クカハ知ラザルモ彼等ガ生活スル如キ生活ハ自分共何人モ能フ所ニアラズト

「ロードリーゲス、アルヴェス」氏ハ語ヲ續ケテ曰ク實際此辛抱強キ日本人ハ他国移民ニトリテハ極メテ險呑ナル同業者ニシテ単ニ彼等ノ出頭ノミニテ他国移民ヲ敗走セシムルニ充分ナリ随テ日本移民ノ入来ハ必然的ニ伊太利、西班牙、独乙等ノ移民ノ減退ヲ激成スベシ黄色移民渡米ノ潮流一トタビ定ランカ将来之ヲ防止スルノ途ナカルベシ吾人カ既ニ歐洲トノ間ニ移民ノ潮流ヲ有シ我國ノ労働ハ之ニヨリテ光輝ヲ有シテ繁栄セリ予輩ノ觀ル所ニヨレバ全般的ノ利害得失ニ亘リテ深く研究スル所ナク漫然日本移民ヲ誘入シ

為メニ歐洲移民ノ排除ヲ来タスコトアルガ如キ計画ハ一切之ヲナスベカラズ

之ニ續キテ「ガレアン、カルヴァリヤル」氏ハ人種混合ノ点ヨリ觀察シテ曰ク「吾人ハ既ニ印度土人ヲ有シ黑人ヲ有ス今又黄色人ヲ迎ヘテ之ト同化セザルベカラサルカ」右ニ對シ「ロードリーゲス、アルヴェス」氏ハ之ニ同シ且ツ重テ黄色移民ノ潮流一タヒ確定スルニ及ハ、之ヲ防止スルコト頗ル困難ナルコトヲ主張シ且ツ曰ク我等ハ常ニ北米合衆国ニ起リタル如キ紛議ト面倒ニ捕捉セラルルニ至ラン云々

### 事項一二 露国皇族「ジョルジュ、ミハイロヴィッチ」太公訪日一件

同十一時四十分發朝鮮ニ向ハル本官ハ本日安東發歸任ス

三六五 一月五日 在京城安達公使(出張中)ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

露国太公出迎ノ手筈等報告ノ件

今朝寺内伯ニ面会御伝言ノ趣委細申述ヘタルニ閣下ニ宜敷御挨拶アリタキ趣答ヘラレタリ露国親王便乗列車遅延ニ付本官ハ明六日夜当地発ノ特別列車ニテ寺内総督ト同乗シ七日午前安東著同正午頃到着スヘキ露国親王乗用ノ列車ニ移乗シ釜山ヘ直行ノ筈

三六六 一月六日 在長春山内領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

露国太公長春出発ノ件

第三号  
露国親王殿下六日午後九時無事出発セララル

三六七 一月七日 中村関東都督ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

露国太公一行安東着朝鮮ニ向ケ出発ノ件

露国殿下一行予定ノ如ク無事本日午前十時五十五分安東著

一 二 露国皇族「ジョルジュ、ミハイロヴィッチ」太公訪日一件 三六五 三六六 三六七 三六八 三六九 三八三

三六八 一月八日 在釜山安達公使(出張中)ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

露国太公軍艦ニ乗込ノ件

一同無事今軍艦ニ乗込ム

三六九 一月八日 寺内総督(釜山出張中)ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

露国太公殿下ノ天皇陛下ニ對スル挨拶及陛下

ノ御言葉ニ關スル件

予定ノ通露国太公殿下ヲ安東ニ迎ヘ同車釜山ニ向フ汽車中「コザコフ」ノ安達ニ内話シタル所ニ依レハ来ル十二日太公御参内露帝ノ使命ヲ天皇陛下ニ奏上シ次ニ両陛下ニ對スル勲章ヲ陛下ニ捧呈ノ後御会食中若シ陛下ノ御都合ニ叶ハセラレ御卓上ニ於テ何等御挨拶ノ御言葉アラセラルルナレハ殿下ハ之ニ對シ答辭ヲ述ヘ陛下ノ御厚遇ヲ謝シ且日露兩國ノ關係ニモ言及シ陛下ノ御言葉ト共ニ之ヲ公表セラレタキ御希望ニ有之右行ハレ難キ場合ニ於テハ勲章ヲ捧呈ノ際